

寄贈

震災文庫 8-104



目 次

1. (1) 施設・設備について

- イ、貴方の室（実験室を含む）の被害状況…………… 1
- ロ、事前に対策を講じておけば被害が出なかった（少なかった）
と思われる事項…………… 8
- ハ、今後対策を講じておくべきと思われる事項…………… 12
- ニ、その他…………… 17

(2) 災害時における行動について

- イ、災害後困ったこと…………… 19
- ロ、災害に対応するためあらかじめ決めておいた方が良く
思うこと…………… 25
- ハ、その他…………… 31

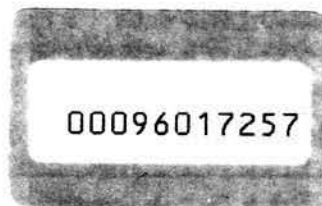
(3) 避難所に関する事…………… 33

(4) 他大学等の支援について…………… 38

(5) 防災体制（非常時の体制）について…………… 44

(6) その他…………… 48

2. 手記…………… 51



1. (1) 施設・設備について

イ、貴方の室（実験室を含む）の被害状況

整理番号	回答内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・書庫の倒壊、図書類の破損、計測器・パソコン類の破損及び使用不能。 ・大型実験施設の使用不能。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・管理室内（他の準備室も含む） ロッカー・棚等が倒れ又は大きく移動し、収納物及びガラス等が散乱していた。壁に亀裂があった。 ・実験室内 ロッカー・棚等は上記とほぼ同じ。大型実験装置がレールからはずれ傾いたり、ベースからずれたりしていた。建物関係は地盤沈下があり、壁の破損・亀裂等があった。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・本棚が倒れ、ロッカーが倒れ、本が部屋中に散らばった。 ・パソコン・ワープロが机から落ち、CRTを中心に何台か故障した。 ・計器等の棚が倒れ、計器が故障した。
4	<p>本棚が倒れて、ドアが開かなかった。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室はロッカー・書庫・机上の備品など部屋中に倒れ、入口ドアから入室困難の状況であった。 ・パソコンはラック上に一式格納していたので、奇跡的に無事であったので助かった。 ・実験室（同階）の内部はロッカー・書庫等の倒れ状況は同じであった。机上のパソコン類は床下に落下し、損傷した。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・実験台の上の分析機器・ガラス器具などがほとんど落下、破損した。 ・薬品戸棚が倒れ、試薬びんが割れた。 ・戸棚の中のガラス器具もかなり割れた。 ・ボンベが倒れ、ドアにくい込み、ドアを開けることができなかった。 ・実験台の排水管が割れ、実験台の表面がこぼれた酸ででこぼこになった。 ・ドラフト・実験台が移動した。 ・パソコン・プリンターなどが落下した。 ・ロッカーが倒れ、ガラス戸がほとんど割れた。 ・木製机がつぶれた。
7	<p>研究室→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー転倒。 ・パソコンのディスプレイ落下。 ・2段重ね書庫の上側が転倒（2台、ガラス割れ飛散）。 ・ミーティングテーブルが書庫に潰された。 ・沸騰ジャーポット落下。 <p>実験室→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬さ試験機のコンクリート製台座がずれた。
8	<p>パソコン・プリンター・ロッカー等の破損。</p>

整理 番号	回 答 内 容
9	教育・研究用の大出力レーザーやガスクロマトグラフィーの損傷が大きかった。更にガラス機器の破損も莫大なものであった。
10	<p>研 究 室→本棚が倒れた（2台）、机の脚が座屈、パソコンが机上から落下、書類ケースが本棚落下で破損、ロッカーが倒壊、ファイルケースが落下し破損、その他、椅子他が損傷。</p> <p>準 備 室→パソコン・プリンタ落下、机上物の損傷、ロッカーの移動（横に複数つながったもの）。</p> <p>設計加工学→本棚が倒れた（2台）、机上本棚の落下破損、パソコン及びプリンタがラックより落下、椅子が本棚の落下により損傷、ファイルケースが落下、その他。</p> <p>計 算 機 室→本棚が倒れた（2台）、パソコン落下（3台）、パソコン大幅移動（5台）、プリンタ落下（3台）、プリンタ大幅移動（1台）、その他、机上物の損傷。</p>
11	研究室→ロッカー・本棚（2台）倒れた、パソコン落下。 実験室→柵の倒壊、各種機器落壊。
13	六つの書棚倒壊、木製の机倒壊、ホワイトボード倒壊、壁かけ型鏡落下破壊、食器類全部破壊。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・学内共同溝のターミナル（コンクリート）が室内の床を圧迫したため、床の南側の部分が著しく隆起した。（工事済み） ・書棚・資料棚が中央部へ向けて倒壊、書籍・パソコン等完全に散乱、入居不能であった。資料棚のガラスが細かく割れて、素手では危険で作業に難渋した。 ・準備室（隣室）・実験室もほぼ同様の状況。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・書庫・ロッカー転倒。 ・パソコンディスプレイ装置転倒落下。 ・机転倒書庫・ロッカーにより凹損、及び水平移動（移動距離約30cm）。 ・部屋側壁ひび割れ。
16	<p>建物等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の建物は増築しているため、新旧建物の接合部分で不等沈下のため6～7cmの段差が生じている。その他、壁面に無数のひび割れ、渡り廊下の屋根の損壊、建物入り口及び周辺の沈下による凸凹した状態。 <p>書架</p> <ul style="list-style-type: none"> ・230連3万冊、集密移動書架複式書架5連39列4万冊、その他単独書架を損壊したため取り替え新設した。 ・立てていただけの書架類は全て倒れた。固定していても、安易な固定では固定が外れ、または一部が外れ、このような一部が外れた書架が最悪で、ねじれてしまって使用できない状態になったものが多くあった。また上部で連結した書架は固定が外れると連結した状態で倒れ、変形損壊した。 ・集密移動書架も同様で、固定していない上部が大きく揺すられ、そのため下部に連結している稼働させるためのメカ部分が大きな力を受け、メカ部分を損傷しながら上部が大きく傾斜した潰れ方をしたものと思われる。

整理 番号	回 答 内 容
(16)	<p>図書・書籍類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの図書・書籍類が落下散乱したが、「ばらけ」たり破損した図書・書籍類は古いものを中心に 500冊程度である。
1 8	<ul style="list-style-type: none"> ・極低温実験棟が不等沈下し、中央に15~20cmの亀裂が生じた。 ・液体窒素貯蔵タンク(3000ℓ) が 3/100cm傾いた。 ・ガラス製デュワーびんの多数が転倒して破損した。 ・机または棚に置かれていた計測器やパソコンが落下破損した。 ・キャリアーにのせていたヘリウムボンベが倒れた。
1 9	<p>パソコン等がテーブルから落下した。ロッカーも同様。</p>
2 0	<p>地震直後は研究室・実験室とも扉も開かない状態で、僅かに押し開けた室内は本棚は倒れ本や資料が散乱し、机は大きく移動して机上のワープロやパソコン等の約 1/3は床に落下し、残りも机の上で転倒し半数は損傷した。研究室の東側と西側にいずれも南北に設置した本棚2本のうち東側のスチール製のもののみ倒れガラス戸等破損したが、西側の木製のものは倒れなかった。電話機が床に散乱した本や資料にうずもれ最後まで取り出せなかったが結果的には壊れていた。また第2本館屋上の天文台では15cm赤道儀が台座のコンクリート取付部から転倒し破壊した。</p>
2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビがロッカーから落ち、壊れた。F A Xは衝撃で故障し使用不能となった。 ・ロッカー類が倒れ、現行法規総覧本等の重みで事務机まで壊れた。 ・壁かけ時計・絵画等が下に落ち、額が割れた。 ・床・壁に亀裂が生じた。本・書類は散乱し、ガラスの破片等で足の踏み場も無い状態であった。
2 2	<p>課長室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄製重量金庫が30cm位動いた。 ・書類整理キャビネットが転倒、引き出しが開いて中の書類が飛び出した。 ・2段重ねの引違戸式保管庫の引戸が開いて、中の本や書類が飛び出した。 ・2段重ねの引違戸式保管庫のガラス戸が破損した。 ・更衣ロッカーが机の上に倒れかかった。 ・戸棚の上のテレビが落下した。 ・床・壁に亀裂が生じた。 ・鉢物が転倒した。
2 3	<p>書庫落下、ラック倒れる、ガラス・戸破損、WS落下、パソコンケーブル破損、通信ケーブル不通、壁破損、床亀裂、壁の亀裂(修理済)、WSのDiskの損傷、プリンタの損傷。</p>
2 5	<p>すべて倒れてしまい、手のほどこしようもない状態でした。ドアも開けにくく、やっと押し開けてもガラスの破片などが散乱しており、倒壊物の山の上を這って移動する状態でした。(なお、国際文化学の共同資料室・L.L.教室の準備室も同じ状態でした。)</p>

整理 番号	回 答 内 容
26	書庫・本棚・器具整理棚・ロッカーなど背の高いものはほとんど転倒した。机の上のパソコン・ワープロ・本立てなどは机から落下した。額など壁に掛けていたものははずれて落下した。机の脚にコマのついたキャスター台のものは移動してはいたが、転倒していなかった。
27	<p>部屋中足の踏み場がない程の状況であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面収納庫の扉がひん曲がり、中の書類が落下。 ・福祉係長の机が横転して、机上のものが散乱。 ・パソコン・ワープロも台の上から落下。 ・冷蔵庫の上の物すべて落下。 ・食器棚のガラス類落下破損。
28	図面整理机が壊れた。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ・パソコン・プリンターが机及びカウンターから落ちた。 ・ロッカー・テレビ・カウンター内のファイルが落下。
30	事務室のため、ロッカー・机・テレビ等について一部破損が生じ、また、書棚等の落下物及び書類の散乱は想像以上であったが、地震の規模から考えれば大きな被害に至らなかったと思う。
31	<ul style="list-style-type: none"> ・書架が倒れて、本が総て下に落ちた。 ・ロッカーも倒れて上に置いている物が下に落ちた。
32	書棚が倒れていた。(水屋も倒れて)食器等が壊れていた。
33	書棚が倒れ、入口扉に凹みを作った。パソコン及びワープロが机上から落ち、ディスプレイが不良になった。ハードディスクドライブ故障。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー・本棚など立っていたものはほとんど倒れていた。 ・机に向かっている場合背中に当たる壁に本棚を立てていたが、その本棚が机の上へ倒れ、机が破損していた。勤務中なら非常に危険だったと思う。 ・ドア内側に重い本棚が倒れ、ドアが開かずに困った。 ・ガラスが割れ、危険。
37	<ul style="list-style-type: none"> ・書架がごとごとく倒れ、一部損壊。 ・パソコン・プリンターの一部が落下し、その上に他の物体が落ち損壊。 ・システム・パネルが倒壊。 ・テーブルの脚折損。 ・鋼鉄書庫の倒壊。
38	別紙(震災報告 P.3 ~P.15)
39	本棚・机等が軒並み倒れた。

整理 番号	回 答 内 容
4 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倒落したもの 事務室→パソコン・ワープロ・キャビネット・テレビ・机・カウンター・時計・食器等 部長室→テレビ・パネル・書架・金庫・時計等 印刷室→印刷機・帳合機・紙折機・穿孔機等 ・ 机等が大幅に移動し、また書類等が散乱しており、最初は足の踏み場もないほどであった。食器・ガラス等の危険なものも割れて散乱していた。部長室の金庫が倒れて、パネルと応接セットでかろうじて支えられていた。とても重く起こすのに苦労した。電話が使用できず困った。
4 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倒壊等したもの 事務室→パソコン・ワープロ・キャビネット・テレビ・机・カウンター・時計・食器・冷蔵庫・電気ポット等 部長室→テレビ・パネル・書架・金庫・時計・ロッカー等 印刷室→印刷機・帳合機・紙折機・穿孔機・金庫・裁断器等 ・ ガラス・食器・大きな物（キャビネット）等が落ちたり倒れたりして、とても危険な状態で、書類が散乱し足の踏み場もないほどであった。 ・ 部長室でも、金庫が倒れパネル（破損）と応接セットでかろうじて支えられていた様に事後処理に困った。 ・ 電話が通じず大変困った。
4 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書架・テレビ・ワープロのプリンター・ロッカー等が落下し、使用不可能になった。 ・ 机が移動して、書類が外部に出て散乱した。 ・ 印刷機が落下物により破損し、使用することが難しくなった。 ・ 印刷室内部の物品が散乱し、ドアの開閉ができなくなった。
4 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの机が移動し、机上の書類等は床に落下した。また書棚のほとんどの書類が床に散乱した。 ・ パソコン・ワープロはラックからほとんどが床に落ちた。
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の地震は南北に揺れたようで、北面にあるシステムロッカーの内、転倒防止処置のない部分が落下していた。 ・ 私の机の引出の内、鍵をかけていない引出が外れて落ちていた。 ・ パソコン・ワープロが台から落ちていた。 ・ 部長室の大型金庫が1 m程度南側に飛んでいた。ずれ動いたような後はなかった。 ・ 部屋の中は足の踏み場もない状態で、書類・引出・本立て・ワープロなどが散らかっており、その上を歩いて移動するしかなかった。
4 6	<p>什器類がかなり倒れ、諸物品が散乱していた。</p>
4 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務用電子計算機室 各機器とも大きく移動し、キャスター付架台でないものは転倒損傷があった。キャスター付架台に設置されたものは、電源・通信ケーブル類の切断、機器どうしの衝突の痕跡が多数あった。

整理 番号	回 答 内 容
(47)	<ul style="list-style-type: none"> ・意外だったのは、ディスプレイ装置のブラウン管が衝撃に強いことが良くわかった。 ・また今回被害が少なかったのは、システムが停止中でありソフト面・ディスク等高速駆動装置が停止していたことによるもので不幸中の幸いであった。
48	<ul style="list-style-type: none"> ・机の上の書類・印箱が落ちた。 ・ワープロ・パソコンが落ちた。 ・更衣ロッカーが倒れた。 ・壁面収納庫以外の書棚はほとんど倒れた。
49	<ul style="list-style-type: none"> ・書架・保管庫等の倒壊。 ・テープレコーダー・ワープロの机からの落下による破損。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・机右側の書棚が、机の左側まで飛んでいた（歪みはできたが使用可能）。 ・書棚の上に設置のテレビは数回転して壊れていた。配線はちぎり取ったようになっていた。 ・洗い場の仕切りガラス落下。コップ等は大半割れてしまう。逆さまになった課員の机もあり、さながら引越し荷物を梱包も解かず一室に雑然と放り込んだような状況であった。
52	<p>事務室・ナース室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北に向けて置いていた健康診断カード収納庫が倒れ、カードは散乱し、あちこちにへこみを生じた。 ・冷蔵庫の上に置いていたテレビが落ち、電源・音量のつまみが取れた。 ・食器棚は倒れなかったが、食器が飛び出してほとんど割れた。 ・壁面収納庫から書類が全部飛び出して散乱した。 <p>処置・休養室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械戸棚が倒れ、薬品類・器具類が散乱し、薬品で床が変色した。 ・ベッドが動き、壁に穴をあけた。 ・オートクレーブの破損。 ・心電計の破損。 <p>廊下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動血圧計が落ちた。 ・体内脂肪計が倒れた。
53	<ul style="list-style-type: none"> ・事務机が移動。 ・壁面収納庫に入っていた書類が、鍵がかかっていたにもかかわらず床に飛び出して散乱していた。 ・キャビネットの上に置いていた書類・本がすべて床に落ちて散乱していた。
54	<ul style="list-style-type: none"> ・東西に置いていたものはほとんど倒れた（雑誌架等）。 ・南北に置いていた保管庫がずれて、上のものが落ちた（中には本や書類がつまっていたのに）。 ・パソコンのディスプレイが机から落ちた。P.C.やプリンターの調子がおかしい。

整理 番号	回 答 内 容
56	<ul style="list-style-type: none"> ・書棚・書架が転倒。 ・書架基部が曲がり、座屈して使用不能。書棚上部曲損・凹損。 ・コンピューターは一部落下。むしろ転倒物・落下物による損傷が多い。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーが倒れた。 ・テレビが落下した（ロッカーの上から）。 ・ファックス・ワープロ・パソコンが机から落下した。 ・食器棚が倒れた。
59	<p>教務課・学生課の事務室の被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー・書庫は大きく動き、中には倒れている書庫も2～3あった。特にロッカー・書庫・机などの上に置いていた物は全て落ちていた。 ・机という机は全部大きく動き、机上の書類等は全て散乱し、鍵のかかっていない引出しは大きく開いていた。 ・パソコン・ワープロ・ファクシミリは、落下し更新した物が1～2台あったが、それ以外は、専用台が大きく動いたものの落下しなかったため、修理程度で使用できたように思う。 ・机上の書類や書架上の書類は全て散乱し、しばらく手のつけようがなかった。また、すぐに整理できなかつたため紛失したものもあったようだ。 ・湯飲み・急須・コーヒーカップ・皿・グラス及びコーヒーやクリープの瓶などが落ちて、飛び散っていた。 ・電気・水道・ガスはストップしたため、これらの関係器具等が壊れているかどうかは、すぐには分からなかった。とにかく、大変不自由した。 ・電話は昼過ぎごろまで使用できたが、その後、不通となり大変不自由した。
60	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーが倒れ扉開閉不能、これにより木製テーブル破損。 ・書棚より書類が落下散乱。 ・壁にクラック。 ・化粧鏡が枠から外れ落下破損。
61	<p>机および椅子の上に左右からロッカーが倒れ、書籍等が室内に散乱した。ドアを開けようとして外側から押しても転倒した物が邪魔をして開けることができなかった。後日、取材にきたテレビカメラでこの室の手付かずの状態が放映された。</p>

1. (1) 施設・設備について

□、事前に対策を講じておけば被害が出なかったと思われる事柄

整理番号	回 答 内 容
1	書庫は移動しないように壁に据えつけ型とする。計測器用の机には特に防振衝撃対策をする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー・棚等の固定。 ・実験装置ベースの固定強化、レールからのはずれ止。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・発電機・電動機等の重量物は被害がなかった。 ・棚等の固定。
4	本棚を壁に固定しておくこと。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーや薬品戸棚に転倒防止金具をつけておく。 ・ボンベたてを使わず、ボンベを何らかの方法で壁に固定しておく。しかし、今回のような地震ではどれほど効果があるか疑問である。
7	パソコン等は、キャスター付きの机に置いていれば、転倒しなかったと思われる。
8	(機器類を) 机に固定すべき。
9	研究室や準備室が広ければ二次元的に配置できるが、狭いため上に積み重ねた結果、損害を起さくした。
10	大型の事務機器(本棚・ロッカー等)が倒れた場合を想定して、その範囲に他の機器を配置しないようにしておけば、少し被害が軽減できたと考えられる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・薬品類は種類毎に(棚も分けて) 区別して保管しておくべき。 ・ガラス類は棚の下の段に保管する。 ・重いものを棚の上に置かない。
13	書棚を低い頑丈なものにする。
14	壁面に書棚・資料棚を固定できる強靱な横木があればと思うが、現在の横木では殆ど用を足さなかったのではないかと考えます。書棚も開放式でなく前面に扉(戸)があればと思うが、使用に当っては不便であるため実用はできないだろう。
15	震度 6~7 に対する事前の対策は、地震発生まで予想外の出来事。従って、今後の事前対策としては書庫・ロッカーの転倒防止が考えられる。
16	什器類の地震を意識した転倒防止対策。

整理 番号	回 答 内 容
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス製デュワーびんが転倒しないように、ベルトなどで固定しておけば被害は出なかったと考えられる。事実、固定していたガラス製デュワーびんは異常なかった。 ・机・棚なども固定し、計測器やパソコンも落下しないよう工夫しておけば被害はほとんど出なかったと考えられる。
19	パソコンについては専用ラックに設置しておくべきだった。
20	本棚等背の高い倒れ易いものは転倒防止用の処置、例えば壁と本体とを針金等で止めるなどの手当てをしておけば倒れなかったかもしれない。比較的重心の高いもの程倒れて壊れたものが多い。なるべく重心を低くしておいた方が良かったと思う。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー類は、全て固定式とする。 ・ガラス類（ロッカー引き戸等）は、極力使用しない。 ・ロッカーの上等高い所へは、不必要なものは極力置かない。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・保管庫は施錠しておけば開かなかった。 ・机上にたくさんの書類を積まないで、保管庫・キャビネットに収納しておけば良かった。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ラックの固定（木枠に強度がなく今も確実な固定ができない）。 ・書庫に転倒防止シートを入れること（一部実施）。 ・書庫を積上げないこと（落下は命取りになるが、室の広さの関係上この危険は今も不可避である）。
25	戸棚・パソコンなどの倒壊を防ぐため、強力な倒壊防止装置（ストッパー）をとりつけておけば被害は少なかったと思われます。
26	書庫や棚などに転倒防止の方策を取っていれば少しはましであったと思われる。通常の金具のものは自宅でも付けていたが、今回はまったく役に立たなかった。激しい揺れのため引きちぎれていた。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫の上に物を置かない。 ・ロッカー・保管庫の上にも物を置かない。
28	防振装置を各施設・設備に設ける。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒・落下防止器具等でロッカー類を固定化しておく。 ・プリンターなどの重量物はできるかぎり下のほうに設置し、移動しないよう措置しておく。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・教務課の事務室の状況から言えば、特に対策を講じていても結果はあまり変わらなかったと思う。 ・講義室等で言えば、VTR等の機器は今回は被害がほとんどなかったが、機器の固定方法等を検討しなければならない。

整理 番号	回 答 内 容
3 1	倒れそうなものには、ストッパーのようなものを付けるべきだと思う。
3 2	書棚をロープ又はカギ留め等で止めておけば被害が少なかったのではないでしょう か？
3 3	パソコンは、キャスター付の専用ラックに納めておけば転落は防げたと思われ る。
3 6	<ul style="list-style-type: none"> ・本棚類は、壁に固定する器具などあったほうが良い。 ・構造上可能なものはキャスター付にしておく、動揺するだけでいいかもしれ ない。
3 7	書架を壁に留めておけば倒れなかったのではないかと思われる。ただし、書籍 をゆとりを持って収納していることが必要（書籍が飛んで書架が助かる）。
3 8	<p>別紙（震災報告 P.26～P.28）参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・什器類の耐震用固定。
3 9	ガラス戸付の本棚はガラスが割れて大変なので使わないほうがよいと思った。 たとえ倒れないようにしても、中に入っている本が飛び出せばガラスは割れて しまうのではないか。
4 0	<ul style="list-style-type: none"> ・倒落しそうなものの固定。 ・固定できないものは設置場所を考慮する。
4 1	倒落しそうなものを固定しておけば良かった。設置場所を考慮するべきであっ た。実際に、私の机・椅子のあたりにはキャビネットが倒れて、ガラスが割れ ており、テレビもキャビネットから飛び出していた。
4 2	<ul style="list-style-type: none"> ・キャビネットやガラス等危険な物があるので、倒落しそうなものを固定して おけば良かった。 ・また、固定できない物は設置場所を考慮するべきであった。 ・現実に、私の机付近にキャビネットとテレビが倒れて、机が凹みガラスが割 れており大変怖かった。
4 3	二段書架を固定しておけば落下を防げた。
4 4	書棚等の転倒防止策。
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の被害状況からは、転倒防止処置の徹底、鍵をかけること、机の上には 物をおかない、など書類整理・収納方法の工夫が必要。 ・直接の被害ではないが、受水槽から簡単に水を得られるようにするとか、ひ とつの物を多目的に使えるよう、災害を想定し、工夫して設置する。
4 6	什器類を壁に固定しておく。

整理 番号	回 答 内 容
47	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーに依存することであるが、各ケーブル類をワイヤー入りカールコードにすること。 ・キャスター付き架台に設置不可能な自立装置には自重対応キャスターを取りつける。 ・キャスター付き架台のコーナーには樹脂製又はゴム製クッションをつける。 ・室内の機器等配置は、高所・壁掛けをできるだけ避けた配置とする。
48	ワープロ・パソコン等の事務機器は、移動式（こま付き）テーブルに置いておけば落下は少なかったと思う。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・システムロッカーは破損したが、倒壊を免れた。勤務中であれば、重大事故になる恐れがあり、固定式としたほうが良い。 ・会計課の大金庫が倒れていたが、倒れない工夫がいる。
52	<ul style="list-style-type: none"> ・天井までの壁面収納庫は被害が無かった。ただ、中の書類が飛び出していたので、施錠（普段から）しておいた方が良いと思う。 ・昨年購入した耐震性の収納庫は無事であった。
53	戸棚類は壁に取り付けておけば転倒は防げると思われるが、1～2ヶ所ではダメでした。
54	本や資料を入れている保管庫に転倒防止の工事しておくべきであった。
56	<p>書架等の壁面への固着</p> <p>→ただしこれの効果（今回の地震に対して）については不明。</p>
58	事務機器・書棚類等に耐震及び転倒防止の設備をしておけば被害が少なかったと思う。
59	ロッカーのほとんどが動いていたが、固定式のシステムロッカーは端の方が少し歪んだ程度で全般的に被害がなかった。やはり固定されていたからであろう。
60	ロッカー・書棚の転倒防止金具の取付け。
61	ロッカーその他に、転倒防止金具を付けておくべきだった。また、教室のキャスター付きの台に設置していたビデオ装置が無事だったことから、台にはキャスタを付けておく方がよい。

1. (1) 施設・設備について

ハ、今後対策を講じておくべきと思われる事項

整理番号	回 答 内 容
1	書庫は移動しないように壁に据え付け型とする。 計測器用の机には特に防振衝撃対策をする。
2	・ロッカー・棚等の固定。 ・実験装置ベースの固定強化, レールからのはずれ止め。
3	棚等の固定。
4	本棚の固定 (高い本棚)。
5	・書庫・ロッカー等は壁に固定する必要がある。 ・パソコン類は移動可能のラックに収納するのが望ましい。
6	・ロッカーや薬品戸棚に転倒防止金具をつける。 ・ボンベを建物の壁に固定する。 ・実験台から機器が落下しないような工夫をする。
7	研究室内の物品の配置に注意すべきと考える。 ※研究室のドアが内開きのため、ロッカーや仕切り板等の転倒によりドアが開かず、室内に入るのに苦労した。このことから、転倒しやすいものはドアから離し、出入口の確保に注意する。又、机・イス等も書庫などから離す (転倒によるケガの防止)。
8	(機器類を) 机に固定すべき。
9	出来るだけ (棚等を) 床・天井・壁等に固定するような支持棒又はクサリ等を考える必要がある。
10	・大型事務機器 (本棚・ロッカー等) を壁に固定する。 ・パソコンに関しては、キャスター付きのラックの方が転倒しにくいのではないかと考えられる。
11	・薬品類は種類毎に (棚も分けて) 区別して保管しておくべき。 ・ガラス類は棚の下の段に保管する。 ・重いものを棚の上におかない。
13	書棚を低い頑丈なものにする。→すでに変更
14	オフィス什器の被害調査と被害防止策をコクヨ等メーカーが責任を持って究明すべきである。今回、新替した什器類は何ら改良されていない。業界全体が口をつぐんでいるのは不健全である。製造物責任法 (PL法) 以前の問題で、社会的責任をメーカーに問うべきであろう。

整理 番号	回 答 内 容
15	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡網の整備。(通信手段の確保) ・非常電源の確保。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・このたびの地震を経験した大学として、十分な、しかも、他地域の大学に見せられる対応策(転倒防止対策)。 ・防災関係規程等の整備。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス製デュービーンをベルトなどでしっかり固定する。 ・机・棚なども壁・床などに固定する。 ・ヘリウムボンベは鎖をかけて固定する。
20	<p>自宅では地震後に、倒れたものを含めて本箱・タンス等全てに壁と本体とを針金でとめる処置をしたが、研究室・実験室では壁の横木等がなくうまく処置できない。これに代る対策を考えてはどうか。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー類は、全て固定式とする。 ・ガラス類(ロッカー引き戸等)は、極力使用しない。 ・ロッカーの上等高いところへは、不必要なものは極力置かない。 ・常に日頃から整理整頓(㊟)に心がけるべきである。 ㊟・・・整理整頓とは、不必要な物を置かない。保管場所の把握等である。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・高さのある保管庫・書架の類は転倒防止策を講ずる。 ・全館非常放送設備を設置する。 ・必要最小限の非常用自家発電機を設置しておく。
23	<p>質問1。(1)口の項目に見るように、まず生命の確保にかかわる事項の整備が第一と思います。今回は人の最も少ない時間帯でしたが、そうでない場合のSimulationは無駄なこととは思えません。</p>
24	<p>収納の仕方。当たり前のことですが物をつみあげないようにする。一度片づけたらぐちゃぐちゃにしない。</p>
25	<p>全学共同で「倒れどめ(ストッパー)」を購入して、各部屋の戸棚・パソコンラックなどに取りつけて頂ければ有難いと思います。個人個人でやるよりも一括購入して、取付け業者に一任して行えば、安く効率的にできると存じます。</p>
26	<p>書庫・棚などの転倒防止。棚の中の用具や器具の落下防止。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ机以上の高さに物を置かない。 ・壁面収納庫等壁にガッチリ固定できる保管庫の使用が安全(それでも今度の地震では相当の被害があった)。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・大学どうしの応援対策を整備する。 ・支援物資をどう送付するか。
29	<p>ドア・窓などの出入り口に不必要なものを置かない。またロッカー等がもし倒れてもドアの開閉ができるようにレイアウトを考えておく。</p>

整理 番号	回 答 内 容
30	<p>今回の地震が休日明けの早朝であったため、職員が出勤していなかったが、執務時間中に地震が起きておれば、また、振幅の角度によれば、ロッカー等の倒壊及び落下物で、職員に多数の被害者が出たと考えられる。</p> <p>このため、ロッカー等は全て建物に固定すべきであり、また、固定化できないものであれば、低位置に配置すべきである。これには、建物の面積も検討しなければならない。</p> <p>国として真剣に防災計画を検討するのであれば、現在の資格面積を再検討し、ゆとりのある研究室・実験室・講義室・事務室を考えなければならない。</p>
31	物はなるべく上に置かずに、下に置くようにする。
33	パソコンは、キャスター付きの専用ラックに納めておけば転倒は防げられる。
35	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚等は壁にしっかり固定して、中身が飛び出さないよう引き戸の物を使う。 ・ パソコン・ワープロ等はキャスター付きの専用ラックに置く。
36	研究室関係者の連絡網。
37	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書架を強固な壁にとめるか、造り付けの書架とするか。高い書架の場合は特に必要。 ・ 出入口を塞ぐ恐れのあるものを置かないこと。
38	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の本・雑誌を大量に貸し出している研究室の書架の固定が必要。 ・ 固定できる所は固定する。 ・ 落下防止できる所は処置をする。→ 工事又は、購入が必要。 ・ ハードで対応できない所は、ソフトで対応する。 → つまり、利用者・職員が支障なく逃げだせるように対策を検討する。
39	棚や机の配置。特に入口のドアの近くはできるだけスペースをとって、ロッカー等が倒れても入口をふさがないようにする。
40	ライフラインの確保→水・保存食の備蓄、自家発電装置の設置等。
41	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常用電源（電話等の事務機器用）の確保が必要です。（2階の電算室の非常電源装置が供給時間を越えたためか警告音を発していた。）自家発電の設備が不可欠だと思う。 ・ とりあえずの緊急用として、懐中電灯（電池も含めて）の常備が望まれる。 ・ 携帯電話も今後は必要になると思う。
42	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常用電源装置（電話等の事務機器用）の確保が必要であると思われる。 ・ また、照明等のため自家発電の設備が不可欠だと感じた。 ・ まず緊急用として、懐中電灯・電池の常備が必要としました。 ・ 携帯電話も今後は必要性を強く感じました。
43	書架・ロッカー類は、壁面を使用して固定し、机回りの物品を出来る限り少なくすることが必要と思われる。

整理 番号	回 答 内 容
44	書棚等が転倒した場合とても危険である。それらの転倒防止策を講じておくことが必要だと思う。
45	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートによっていろいろな状況が分ってくると思われるが、単に集計・報告書の作成のみにとどまらず、組織を越えてワーキンググループを作り、それをまとめ検討し、対策委員会へ答申するなどし、本学の組織・実力をふまえた今後の防災対策に、全学的・積極的に取り組むべきと考える（グループの位置付け、予算の裏付け等問題はある）。 ・地下水槽・緊急食料倉庫・緊急物品倉庫など、事前の備えが必要。
46	電話回線（直通電話）の確保。
48	出入口付近にロッカー・書棚等置いておくと、倒れて出入口をふさぐことがあるので置かないほうがよい。
49	<ul style="list-style-type: none"> ・書架をブレース等で固定しておく。 ・背の高い書架を用いない。
50	<p>学校関係の建物は元々頑丈に構築され、日頃から改築改修が行われてきた。第2号館の大型改修は昭和60年代に完工したが、施設課職員としてかかわった経験上、仮に未改修であったなら一部倒壊したと思われる。これほどの大地震が発生すれば、如何とも防ぎようがない。常日頃から、あらゆる面で安全を心がけて事にあたるほかないと思う。</p> <p>緊急用携帯電話の常設は是非とも必要である。又、避難用緊急設備品・消耗品を常設しておくほうが良い。</p>
52	薬品収納庫等は耐震性のものにすべきである。
53	水の重要性を痛感したので、防火用水とか貯水能力のある施設を設けるのはどうか。
54	<ul style="list-style-type: none"> ・本や資料で不要のものを処分し、保管庫等に転倒防止のための器具などを取り付ける。 ・物を不安定な所におかない（保管庫等の上に、落ちたら困るような物をおかない）。
56	<ul style="list-style-type: none"> ・書架等の壁面への固着。 ・出入口の付近に転倒・散乱しそうな家具類を置かないこと。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・事務機器・書棚類・大型備品等に転倒防止を設備する。 ・井戸の設置、大型水槽の設置。 ・自家用発電機の設備、携帯電話の常備。 ・非常用放送設備の設置。 ・非常用設備・物品の備蓄計画策定。

整理 番号	回 答 内 容
59	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のように余りにも大きな地震の場合、電気・水道・ガス・電話がダメになることは仕方ないとしても、少なくとも発電機が何台かあれば、学内の一部の電気や電話が利用できる可能性があるので、発電機を何台かは配備すべきであろう。 ・ 今回、プールが竣工されたばかりであったため、プール内には水もれ検査のため水を入れていたことにより、避難者のトイレ用や洗濯など大いに役立った。今後も水は耐えず入れておくことにより、防火用等としてもしもの場合に利用できるであろう。
60	質問1. (1) ロの事項を事前に措置。
61	室（トイレを含む）のドアは通常は危険防止のために内側に開くようになっているが、このような災害時には人がスムーズに室から出られるようにするために、外側にドアを開くようにする必要があるのではないかと思う。

1. (1) 施設・設備について

二、その他

整理番号	回 答 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後対策を講ずるための予算的裏付けをどうするかが問題 ・ 対応は個人でやるのではなく<u>大学全体として対応することが必要!</u>
2	事前の対策はもちろん必要と思われるが、今回の震災に限り、想像以上の力が働いたと思われるので、ある程度の被害はやむを得なかったように感じた。
4	参考ですが、小生の前任地（大阪大学文学部：豊中市）では、やはり本棚がほとんど全て倒れたため、地震後 1~2 ヶ月の間に業者を入れて壁に穴をあけ、全ての本棚を完全に壁に固定していました。本学も希望を聞いて、倒れやすい物の固定を考えたらいかがでしょうか。一度にやらなくても、少しずつでも良いと思います。
2 1	脱出通路（非常口）は建物毎に最低 2 箇所を確保すべきである。勤務時間中に発生した場合、建物の反対側まで移動しなければならない現状では、人命尊重への対応が危惧される（筑波技術短大・病院の例等を参照戴きたい）。
2 3	振動の向きまたは書庫の向きが違っていたら、修士論文で泊まり込みの学生の死亡も起こっていたと考えられます。
2 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開き戸（ドア）の他、引き戸も設置する。開き戸は書庫や棚の転倒のため開けることができないものがあり、整理のため部屋に入れなかった。 ・ 改装工事は終わったが、床などは上に P タイルを張っただけでひどいところの書庫は下は壁についていても上は壁から 10cm も空いているところがある。
2 9	非常持ち出し書類等を収納したロッカーなどは定期的に点検し、異常がないか確認しておく。
3 3	引き戸式の保管庫に収納しておいたものは、器具類の損壊が少なかった。
3 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別紙（震災報告 P.29~30）参照。 ・ 特に図書館は増改築を繰り返しているので、現在は通用口 1 ヶ所のみしか無い非常灯・誘導灯の設置、携帯用マイク、ラジカセの常備が不可欠であり、<u>誘導體制、避難路の確認に関して全員の周知が無いと利用時間帯にはパニックになると思う。</u>
3 9	復旧工事の際の通水テストのとき実験室に水が漏れてきた。土曜日のことだったがたまたまその日は学校におり、機材が濡れないようビニールシートをかけたり、水に濡れない位置に物を動かしたりして難を逃れたが、テストはもう少し慎重にしてほしい。震災を乗り越えた機器が、水浸しになって使えなくなったりしたら笑い事ではすまない。
4 0	建物の強度及び立地状況等を検討すべきであるが、高速道路が倒れるほどの地震が再び起これば対策はないのでは・・・起こらないことを祈るばかり。

整理 番号	回 答 内 容
4 1	踊松宿舎の整備をしていただき、ありがとうございました。
4 2	建物の強度及び立地状況を少し考える必要があると感じました。
4 4	今回のような大地震が再び起こるかどうかが、いささか疑問である。よって、人命にかかわる事項以外の大規模な耐震対策は経済的な面からも不必要と思う。
5 2	ガス湯沸かし器が地震のとき自動的に切れるようになっているのか。
5 9	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、縁の下の力持ち的存在で動いてくれたのが、深江丸であったと思う。電気・ガス・水道のない時から、我々の汚れた体にシャワーの提供を、また、教職員や他大学からの応援職員の宿泊場所の提供など長期にわたりお世話をいただいた。 ・今回、第3号館で修論や卒業研究をしていた学生が中心となって、タンクからこぼれ出している水を非常にたくさん汲んでくれたが、これは水が全然ないときだけに大変助かりました。今後も避難場所として避難者を受け入れる場合等には、水の確保も検討しなければならないのではないだろうか。 ・地震後、発電機が大いに役立ったが、燃料（ガソリン）の補充のため実習船白鷗で堺市の方まで買い出しに行ったが、緊急時で道路状況が悪い時などには船を利用すべきであろう。 ・今回のような非常時では、飲み水の確保が一番かと思ったが、常時飲料水用に海水を確保するのは難しく、実験にも使用しながら海水を淡水化できる装置を配備しておけばよいのではないか。また、屋上タンクの水をうまく利用できないものか。

1. (2) 災害時における行動について

イ、災害後困ったこと

整理番号	回答内容
1	後片づけ・ライフライン・事務処理（書類書き・被害調査）。
2	・食料・飲料水・着替え等日常生活に欠かせないものの欠乏。 ・通勤手段の確保。 ・災害後の復旧に必要な物品等の不足。
3	自宅全壊。自宅全壊なのに教授会が開催されて困った。
4	交通の便（直接被災していません）。
5	交通。自宅からは自転車が唯一の交通手段であった。
6	1.地震直後、食料・水が手に入りにくかった。 2.ラジオからだけの情報では不十分であった。御影でガスが洩れ、避難勧告が出そうな状態であったが、洩れたガスは何で、どのような形で勧告が伝えられるのか、またどこに逃げればよいか全くわからなかった。 3.近くで数か所から火災が発生した。 4.電気・水道・ガスとも正常になるのが遅かった。特にフロのために長時間並ばなければならなかった。
7	・電話が不通になり、連絡ができなかった。 ・通勤（交通機関の不通）。 ・水道が使えない。 ・震災後数日間、大きな余震が起こる心配から、家族を残して自宅から出にくい（出勤することに対する不安）。
8	交通手段・水・研究。
9	通信網・電力・水道並びにガスの供給に大変困った。
10	災害復旧に当たった時に、ライフラインの中で水を使えない点が最も困ったように思われる。また、通勤が困難を極め、すべてのルートで車が大渋滞しており、必要な物資の運搬に困った。
11	交通（渋滞も含めて）・買物。
12	交通の不便・水がないこと。
13	水・食糧・電気・電話・ライフライン・交通の便。
14	・ライフライン（ガス・電気・上下水道）・電話・道路・鉄道（具体的には通勤に利用している阪神電鉄）の破壊。

整理 番号	回 答 内 容
(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の発電設備・炊き出しの燃料・緊急用水・食糧・電池・手袋等の備蓄が無いこと。
1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の中断（電気・水道・ガスの各ラインの中断）。 ・通勤手段の確保。 ・研究の中断。
1 6	通勤手段・自宅での生活（水・電気・物資）。
1 8	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と自宅との間の交通手段の確保。 ・飲料水・雑用水などの確保。 ・大学との連絡がとれなかった。 ・交通手段などについて、公的確かな報道がなかった。 ・給水についての公的報道がなかった。
1 9	水・ガス・大学への足。
2 0	<p>何と言ってもいわゆるライフライン（電気・水道・ガス）の遮断が最も困ったことであった。電気は他に比べ比較的早期に復旧したとはいえ、電気は主として照明の点で、ガスは暖房面で、更に水については日頃思いも寄らないほどの頻度で多量の水を使用していることが改めて思い知らされた感がある。</p> <p>また交通機関の寸断についても、日頃慣れ切ってしまっている有難さを十分に再認識させられた。</p> <p>なお、地震直後からの通信手段の欠如も大変心細い思いをした。</p>
2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤手段の確保 震災直後出勤を試みたが、鉄道は止まり、国道も長田地区で通行止めで、徒歩でも通れなかった。2日目に六甲越えを試みたが5時間かかっても六甲トンネルまでたどり着けなかった。3日目に車で未明に宿舎を出て、昼前にやっと大学にたどり着いた。 ・自宅での水・食糧の確保 単身赴任につき、家族の安否を気遣う必要はなかったが、反面自分一人なので自分の食糧等の確保ができなかった。（救援物資も水の一滴も手に入れることが出来なかった。） ・電話対応 安否等照会、救援物資・人の派遣等照会、文部省報告等庶務課代表番号での対応が、1日数百本にものぼり対応に苦慮した。（非常時につき、夜中もテープを流せず本部当直でない日は24時間対応した。1月中の時間外対応、22時～5時、1日当たり約30本）
2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・直後の数日間、職員の出勤率が低く、人手が要る時に人が少なかった。 ・我が家も被災し、家族が不安がっているのに職場優先で出勤せざるを得なかったこと。 ・睡眠時間が満足にとれなかったこと。 ・避難民支援の業務が加わり、本来の事務の遂行に支障があった。 ・被害を受けた建物の危険度合いがなかなか判明せず、建物内立入調査が遅れたこと。

整理 番号	回 答 内 容
(22)	・事務室に電話番がいなかったこと。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な情報が不足したこと。 ・水・電気が遅れたこと。 ・交通の混乱。 ・急いでほしい修理がすまないこと（不急の塗装よりも廊下の照明の方を早く直してほしい）。
24	<p>非常食というものが何もなかった。また車がなかったので近くの店のものが売りきれてしまってもなかなか遠くまで買いに行くことができにくかった。食べるものが片寄っていたからか体の調子が悪く、一時急性胃炎にかかってしまった。</p>
25	やはり通勤の足を奪われたのが一番困りました。さらに連絡の手段（電話）がないこと、部屋が雑然としてしまい、資料が散らばり研究に専念できなかった点、などです。また、水・水道・ガスが利用できないのにも困りました。
26	大学が今回のように救援活動の一拠点として活動する際、さしあたって必要とされる緊急用備品を備えていなかったこと。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の不通 <p>停電時、ダイヤルインのためバックアップ電源は半日しか持たない。直通電話が官用車・深江丸にあるのにもかかわらず気づくのが遅かった。車庫に至っては電動式のため停電により扉は開かず、官用車の電話は使えなかった。</p>
28	通勤。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・電話・電気・水道など”ライフライン”のストップ。 ・情報収集手段が少なかった。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水の不足及び通信手段が遮断されたことである。 ・食べ物については、1～2日は各過程とも保存食は多少あるが、飲料水については大変不自由を強いられた。 ・また、国の機関である以上、速やかに文部省等外部との連絡を取らなければならないが、当日の昼過ぎに電話が停電のため使用できなくなり、外部との連絡が取れなくなったこと。幸いに、センター試験実施本部の電話が1本使用できたのが救いであった。
31	災害後、交通手段が全くなくて来れなかったが、出勤しなくてよいのか、どうしても出勤しないとイケないのかの判断ができずに困ったので、そのようなマニュアルを作成してほしい。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・電信・交通の便がなくて出勤できなかったこと。 <p>職場までの通勤が、地下鉄（折り返し）・徒歩（新神戸～三宮）・代行バス（三宮～本山）・徒歩（本山～大学）と、時間が片道約3時間半。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場では、水・ガスが出なくて困った。 ・書類がどこにあるのか手間どった。

整理 番号	回 答 内 容
3 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本山南町で被災したが、電柱や家屋の倒壊で道路が閉鎖され、自動車が利用できなかった。 ・ 自宅電話が不通になり、公衆電話に行列したが、通信・連絡手段に最も苦労した。 ・ 学内では、電気・水道の復旧に手間どったことが一番の苦痛。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフライン・交通機関など困った。 ・ 回りの状況がつかめなかった。
3 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水・ガスがなかなか復旧しなかったこと。 ・ 交通機関の寸断。 ・ 食糧（特に生鮮品の不足）。
3 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何と言ってもライフライン。特に、排泄・廃棄物側のそれら。 ・ 移動手段→やはり、職住近接の自然を保全したまちづくりが基本。 ・ 通信連絡→私は1月18日に登学し、その日出勤の教官らと任務分担して出勤不能教官への連絡係を受け持ったが電話しか無い。そのため1月19日は登学せず、大阪（震災地域の外）で、一日中公衆電話を利用して連絡した。
3 7	水（学内）・水洗便所・交通機関の不通。
3 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的には、交通の不便。 ・ 復旧時の問題点については、別紙（震災報告 P.23～25）参照。
3 9	情報不足と、徒歩であちこち移動しなければならなかったこと。
4 0	<ol style="list-style-type: none"> 1.地震直後は電話・テレビの不通による情報不足で行動が取りにくかった。 2.交通機関の停止→自転車通勤はつらかったが、今では良い思い出になりつつある。 3.自宅の修理、水・食料の確保等。
4 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤している職員の人数がとても少なかったこと。 ・ 連絡が取りにくかったこと（職員の安否確認、学外者との連絡等）。 ・ 交通手段が確保しにくかったこと（私は通勤には不便しませんでしたが出張等で不便でした）。 ・ 緊急用の物品（水・食料品・カセットこんろ・薬等）が絶対的に足りなかったこと。 ・ トイレが確保しにくかったこと（初期段階でトイレ用水にプールの水を使用したことは正解だったと思う。ただ、水くみが大変でした。）。
4 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話連絡が取りにくかったこと（学外との連絡）。 ・ 交通手段が確保しにくかったこと（私は通勤に特に不便で、出張等でも不便でした）。 ・ 緊急用の必要物品（水・食料品・暖房用品・カセットコンロ・薬等）が絶対数的に足りなかったこと。 ・ トイレに困った（プライバシーが守れないと思う）。

整理 番号	回 答 内 容
4 3	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行を利用出来なくなり、生活用品を購入することが難しくなった。 ・飲料水の確保及びガスボンベの購入等、生活必需品を購入するのに何時間も待つ必要があった。 ・病気になった子供が病院を利用出来なかった（交通混雑のため）。
4 4	<ul style="list-style-type: none"> ・直後は何をすべきか判断がつかなかったこと。 ・1月17日はほとんど情報が入らなかったこと。 ・学内・学外に関しては、通信が途絶したこと。 ・学内・学外とも水が不足したこと。
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後困ったことは、通勤の手段が限られた事が一番。 ・職務と災害対策の両立（優秀な職員に感謝。）。
4 6	ライフラインの切断。
4 7	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の不通による情報切断。 ・道路・鉄道等交通網の寸断。 ・ライフライン？と呼ばれる電気・上下水道・ガスの切断。
4 8	<ul style="list-style-type: none"> ・震災当日は情報が少なく出勤したが、2日目以降テレビ等の情報により通行規制を知り、出勤すべきかどうか迷った。 ・大学との連絡がとれず、状況がわからなかった。
4 9	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤のための交通手段が確保できなかった。 ・いわゆるライフラインの損壊による生活上の不便。
5 0	<ul style="list-style-type: none"> ・職場への連絡が極めて困難であったこと。 ・交通経路が遮断されたこと。 ・地震直後に停電し、ラジオもなく情報が遮断されたこと。
5 1	交通渋滞・交通規制。ましになった（慣れた）とはいえ現在も続いています。
5 2	<ul style="list-style-type: none"> ・電話が不通となり、連絡がとれなかった。 ・交通手段が全部遮断され、通勤不可能であった。大学に来れたのは6日目、それも片道7時間くらい要した。 ・大学（体制）がどのように動いているのか解らなかった。（出勤できてからも）
5 3	<ul style="list-style-type: none"> ・電話がかかりにくくなり、連絡がとれなかった。 ・交通機関がストップして身動きがとれなかった。 ・道路が渋滞して移動に時間を要した。
5 4	学内→必要な本や資料がどこへ行ったかわからなくなり、いつも探し物をして いた。
5 5	<ul style="list-style-type: none"> ・水・食料の確保。 ・交通機関が遮断され車を持たないものは遠方までの買い出しが大変だった。

整理 番号	回 答 内 容
56	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の安否確認と調査。 ・研究・教育機器の損害調査→使用して後、被害が判明するゆえ。 ・研究施設の被害調査（総合水槽など）。 <ul style="list-style-type: none"> →高精度に調整してあるので判明しにくい。一部を修理調整して他所の問題点が後で判明してくる。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・飲み水がなかった。 ・1日目・2日目は職員がいないので、死亡学生の搜索、その後の処置のため長時間本部を離れなければならず、また連絡をとる方法もなかった。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から学内外とも連絡がとれなかった。 ・停電により、テレビの情報が入らなかった。 ・予備を含み電池がなく、懐中電灯・ラジオ等の使用ができなかった。 ・水がなく非常に不自由した。特に飲み水は食事にも必要であり、今後、予備水をどれくらい保管しておくべきか悩むところである。 ・食べ物はこの家庭でも1～2日分はあるかも知れないが、家族が多ければすぐなくなることであり、家族がすぐ調達に走ったがパニック状態であった。 ・携帯用コンロ及びカセットボンベの常備。コンロはあったが、カセットボンベの予備が1～2本だったのですぐなくなり、他人に分けていただいた。 ・交通機関の不通により何処へもいけないどころか、職場の同僚が何日も職場に来れなかった。 ・道路の大混雑により、何処に行くにも身動きができなかった。 ・職場の同僚及び学生の安否を確認したいが、電話の不通・交通機関の不通でどうしようもなかった。
60	<ul style="list-style-type: none"> ・水道・ガス・電気の供給が停止し日常の生活に非常に支障があった。 ・特に停電により業務の遂行が困難であった。 ・交通機関・道路の不通により、職員の出勤が一部不可能であったこと。 ・地域全体が被災しており、地元の業者の対応が十分でなかったこと。
61	<p>困ったことはいくらでもあり書き尽くせない。例えば、水が無くトイレに最も困った。</p>

1. (2) 災害時における行動について

□、災害に対応するためあらかじめ決めておいた方が良いと思われること

整理番号	回 答 内 容
1	緊急時の連絡網・防災組織。
2	非常時の連絡手段・非常時用品の準備。
3	連絡網の充実。
6	お互いの避難場所を確認しておくこと。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・大学としての対応手順の大まかなところを教職員・学生に知らせておく。 →災害対策本部の設置に関すること、安否確認のための連絡先等。 ・平日昼間の災害についての対応。 →学生の誘導、情報伝達等。
8	非常持ち出し。
9	学内教職員の通信網の整備と、学内での大型自家発電装置（コージェネ）の設備が急務である。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急用のライフラインの考え方（最低限の供給方法）。 ・緊急時の必要物資の運搬ルートをと、予想される災害に備えてあらかじめきめ細かく決めておく。 ・緊急時の教職員のとるべき行動の基準のようなものを定めておく。
11	教官間の連絡網・主任代理。
12	連絡網の確立（2系統→たとえば、無線と電話）。
13	ライフラインの危機管理。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・防災組織及び防災訓練。 ・ボランティアの登録を大学又は地域として行う（他地域への救済や支援にも備える必要がある。「お返し（ご恩返し）」が必要となるかも知れない。）。 ・備蓄資材（水・食料・薬品・日用品等）の検討。
15	<p>学内においても災害に対する対処方策を検討した方が良い。例えば火災発生への対応・台風高潮対策等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常ベルが鳴ったときの対応。 <ul style="list-style-type: none"> →火元の確認。 →対外的な連絡。 →消火体制（消火栓・消火ホースの担当等）・・・細かく決める必要はないものの、点検整備の責任者は決めておく必要があり、ただ決めるだけでなく実際の想定訓練も必要。

整理 番号	回 答 内 容
16	大学への連絡方法・手段。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室の学生の住所（帰郷先も）・電話番号などを整理して、連絡系統を決めておく。 ・液体ヘリウム製造設備の安全確保の方法を徹底する。 ・定期的に防災教育・安全教育を実施する。
20	<p>予期せぬ事態の生じるこうした災害時に先ず最初に必要な事は情報の確保であろう。その為にあらゆる場面を想定した、少なくとも本学関係者内での適切な連絡網を設定しておく必要がある。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時間帯、季節等を想定した詳細なマニュアル・規定の整備。 ・可能なら指揮命令系統も含め図式化した完結明瞭なマニュアルの整備。 ・全国規模の災害時支援体制の整備。 ・地方自治体との協力体制の整備。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の役割分担を明確にし、規程に載せるだけでなく教職員全員に配布しておく。 ・連絡網の整備→一人の者が大勢に連絡できないので、いくつかのグループに分けて、電話連絡網を作っておく。 ・地域社会の中で大学が何を受け持つか、県・市と話しあっておく。 ・大学相互間の支援体制のあり方を検討し、支援計画を策定しておく。
23	連絡網。
24	<p>過ぎてしまったら忘れるもので、あまり今頃は考えていませんが、非常用リュック（懐中電灯・食料など入ったもの）をいつも手近に置いて避難場所も決めておく。</p>
25	<p>マニュアルが無いのが大災害の特徴だと思いますが、（電話が通じるとして）教職員連絡網を作っておけばと思います。</p>
26	<p>今回の対策本部の活動を参考に、救援活動や対策内容の概要をあらかじめ決めておく。細かい内容は今回のような災害時には実施不能となるのではないかとと思われる。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> ・使用できる直通電話の確保。 ・水の確保（衛生上、重要なことである）。 ・今回は、たまたま最高の時期・最高の時間に起きたため、あれでも被害は最小限で済んだと思われるが、緊急物資の備蓄が必要。 ・避難住民への対応のための体制。
28	県内・近畿管内で国立大学・文部省機関で相互支援体制を確立する。

整理 番号	回 答 内 容
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の連絡網を整備して、指示・命令が円滑にいくように定期的に確認しておく。 ・ 指示者の出張等で初期対応が遅れないように、いろんな状況を想定して、シミュレーションをしておく。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料水を常時備蓄すること。これについては、日常に順次使用する施設を設置すれば、以後は無駄なく管理することができる。食物については、今回の体験からすれば、敢えて多くを備蓄し、管理及び場所等に時間を費やす必要はない。また、災害救助物品等についても、被害の規模・種類により異なるので、組織としての必要最小限の備えをしておけば良いのではないかと思う。(地域住民等の災害救助物品については、自治体が考えることである。) ・ 通信手段の確保については、自家発電装置等を確保し、必要最小限度の手段は確保しておく必要がある。
31	災害が発生した時指示する、連絡網のようなものがあれば良いと思います。
32	交通手段の手配。
33	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな事態を想定した連絡網の確立。 ・ ラジオ等の公共情報メディアの活用。
34	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常持ち出し品の用意。 ・ 非常事態時の連絡、待ち合わせ場所を決めておく。
35	合理的な安否確認の方法。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信連絡網（単一でなく三重網ぐらいにしておく）。 ・ 執行部 {学長→だめな時は学生部長→だめな時は図書館長} で、災害発生時 {局長→ " " 庶務課長→ " " 会計課長} に臨時に意思決定機関を編成できるようにしておく。 ・ 防災・災害対応のマニュアルを作っておくとともに、<u>年に一度くらい訓練をする。</u> ・ 他所で発生した時の支援についても準備をしておく（質問1.(4)、(5)参照）
37	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通障害のある場合の勤務体制。 ・ 大学が利用できない場合の代替措置。 ・ 連絡網（手段を含めて）の確立。
38	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員連絡網。 ・ 『企業の地震対策60のポイント』 住友海上リスク総合研究所著 東洋経済新報社 95.9刊 は、簡単によくまとまっていると思われる（参考に目次のコピーを別紙にて添付します）。
39	緊急時の連絡先。例えば文部省内にでも伝言ダイヤルのようなものを用意してもらえればよいと思う。

整理番号	回 答 内 容
40	<p>各個人のとるべき行動 →災害の起こった時間、個人がいる場所で対応が変わる。自宅であれば家族の安全確保、大学であれば大学人としての対応等、それらをまとめたマニュアルはできないものか。</p>
41	<p>大学間の協力のあり方、職員への連絡網の整備、緊急用物品の備蓄。</p>
42	<p>大学間の協力体制のあり方、職員の非常事態連絡網の整備、緊急用物品の備蓄</p>
43	<p>連絡体制を整える、生活必需品の数日分の購入、情報の確保。</p>
44	<p>私生活では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な災害の状況（台風・火事・洪水・墜落事故など）を知らしめ、災害時のとるべき行動（防御方法・避難経路等、また身近なところでは交通事故や水難など）の方法。 ・家族の役割分担（できること、やるべきこと）。 ・避難場所の設定（家・学校等の公共施設）。 <p>大学では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代替授業の実施委託。 ・卒業研究の指導委託。 ・実験機器等の使用だけでも可能にする。 ・単位互換制度の活用。
45	<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の役割分担 災害を例えば初期・対策期・反省期と分けるとすれば、初期においては、災害の種類・状況に応じ、「対策組織表」を作成しておき、発生と同時にその場にいる者で役職・担当職務に関係なく各個人の役割を決定し、各個人はその役割に全力を尽くす。対策期は、対策本部を設置し役職・担当職務に応じ本部委員となりその職務を遂行する。反省期はワーキンググループを作り担当職務により、報告書のまとめ、原因の分析、今後の対策を検討する。 例えば、火災「対策組織表」＝消火班・避難対策班・連絡班・渉外班・記録班など。 結局、どんなすばらしい対策を考えていても、初期においては各個人の資質の問題である事には間違いないと考える。 普段からの訓練、意識の啓蒙以外にはない。 ・災害対策機器の整備・保管 とは言っても、器具がなくては対処のしようがないので、災害が起こってから必要機器を調達するのではなく、ある程度の物品は常備しておき、いつでも使用できる状態にしておくことが必要と思う。保管場所・方法、予算、必要物品の種類・数量など、むずかしい問題があるが、慌てず、ひとつひとつ解決する事が必要。
46	<p>非常時の連絡網の確立。</p>

整理 番号	回 答 内 容
47	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の確認（看板等明示ー収容限度人数と最寄りの避難所の所在略図）。 ・災害の起こる時間帯の想定を朝・昼・夜・平日・休日の区分を設けて準備又は訓練。 ・通勤手段の複数調査登録。
48	<p>電話回線の問題等により連絡が取れるかどうか分からないが、一応、連絡網を決めておいた方がいいと思う。</p>
50	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網を定めておいた方が良い（ex. 大学⇔庶務課長→補佐→・・・） 一つしかない大学の電話に集中したはずである。 ・即決・即断の事態が頻繁に起こる。誰もが迅速に対応できるような指針が必要である。
52	<ul style="list-style-type: none"> ・体制（大学としての）づくり。 →今回のように交通手段がすべて遮断された時どうすべきか。 ・医療体制。 ・ボランティア活動。
53	<p>非常時における連絡方法。</p>
55	<p>避難所の確認と待ち合わせ場所、非常時の連絡の方法。</p>
58	<p>○安否の確認〔勤務時間外及び学生の休業日〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐ大学に出勤できない場合は、本人の安否・状況を連絡する（教職員）。 ・学生の連絡体制網→学生課に連絡。 <ul style="list-style-type: none"> 〔 例：学部は各学年の学級単位（責任者を決めておく） 大学院は各指導教官単位（ " ） 留学生は国単位 （ " ） →上記連絡体制のほか、学生課においても鋭意連絡を取る。〕 ・震災及び災害時の授業の計画・予定策定。 <p>○勤務時間内及び授業中に地震が発生した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時の身体の処し方。 ・地震が収まった場合の避難命令（対策本部長）と避難場所の設定、情報の伝達。 ・けが人の応急処置体制。 <p>○共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震の警戒宣言が発令された時の大学の対応（学生・教職員）。 ・学生の被災状況の把握方法（様式）。 ・学生の被災に応じた経済的な援助、居住の援助及び斡旋体制。 ・学生の協力体制の構築（大学の災害対策本部への）。 ・自主防災隊（自衛消防隊を準用）の設置及び編成基準（防災隊：出勤・訓練・相互協力）→対策本部が設置された時は対策本部長の指揮下に入る。 <ul style="list-style-type: none"> 〔 自主防災隊編成基準〕 ・隊長・副隊長・通報連絡班・避難誘導班・消火班・工作班・救護班 （警戒班・放射線班）。 ・自主防災隊の編成に学生の編成を考慮。

整理 番号	回 答 内 容
(58)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対策本部の設置及び場所（構成・任務・構成員の召集）。 <ul style="list-style-type: none"> 〔 班組織：通報連絡班・情報収集班・施設対策班・学生等対応班・救急衛生対策班。〕 →上記については、班単位の任務と相互協力体制を策定。 ・ 本学構成員の食糧・飲み水等の確保と供給体制（炊き出し体制）。 ・ 備蓄物品の計画と使用方法。 ・ 本学被害（施設・設備）の把握体制・方法。 ・ 各機関（大学）からの支援物資の受領・要請体制。 ・ 本学構成員に対し地震発生（予知も含む）及び震災対応のパンフレット作成。 ○避難民への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所の設定。 ・ 神戸市防災計画の内容（避難民への対応方針の基準）を本学構成員に周知 ・ 避難民対応の組織・避難場所の管理。 ・ 避難民への供給物品等の方策。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の防災規程は、教官・職員とも余り認識はなく、また、いざ災害の際はすぐに動けたかどうか。防災規定を整備し直すとともに、教職員に災害の際の対応について認識してもらうことが必要。 ・ 定期的な防災訓練が必要。消防訓練と同時に実施してもよいのではないか。 ・ 災害時に対応できる道具・用具類の整備。 ・ 教職員・学生の連絡体制の確立。教職員は、系や課単位での連絡体制はどうか。学生は、学生寮を除く通学生に宿所届けを必ず提出させ、近くの友人1～2名を何かの連絡の際に利用するものとして記入させるようにするのはどうか。
60	震災対応マニュアルを作り、非常時の訓練をしておくこと。
61	やはり防災マニュアルである。ただし、その時になって詳しく読むことはできないので、図解やフローチャートにしてポイントを明示しておく必要がある。

1. (2) 災害時における行動について

ハ、その他

整理番号	回答内容
1	避難所としての機能をどう考えるのかのコンセンサスづくり。
1 1	学生の現住所（最新の連絡先）を絶えず（定期的に）確認しておく。直後の確認のとき（特に研究生）困りました。
2 0	今回の震災後ほどボランティアの真の威力が発揮された事はなかったように思う。我が商船大学寮生の目覚ましい活躍ぶりをはじめ、全国老若男女の幅広い活動は目を見張るものがあると同時に、予期せぬ災害時にはこうした潜在的な大きな力が集結されなければ真の意味で災害は食い止められないと思われる。
2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時対応物品の備蓄→水・食糧・非常用電源等の備蓄。 ・各施設の耐震構造の再チェック。 ・教職員・学生の相互連絡体制の整備。 ・管理職員に対する大学近隣宿舎の確保。
2 3	自治会等では防火訓練等を聞くが、職場ではこの方聞いたことがない。大学でも応急行動の準備がたまには必要でしょう。
2 6	本学ではストライキに関しては授業実施などの取り決めがあるが、一般的な災害が起こる恐れのある時、すなわち警報時についての取り決めは、記憶するところでは本学にはないように思う。他大学ではそれらの取り決めがなされているところもある。
2 8	人災ではなく天災だということを、認識のできない人の頭にたたき込んでおくべき。
3 3	被災当日昼頃に大学に来たが、「対策本部」のような組織が頭に浮かばず、ただ、自分の研究室まわりを見回って、全壊した自宅に戻ってしまった。組織としての自分の位置付けの認識が足りなかったことを反省しています。今後は防災部署表を目につき易い所に掲示しておくと思いいます。
4 0	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生直後、付近住民と付近を見回り、安否確認の後、壊れた家には協力してシートをかぶせた。 ・付近住民とのコミュニケーションがとれた事は不幸中の幸いだった。
4 1	宿舎の人間どうしで、協力できて良かった。
4 2	避難所で見知らぬ人にお世話になり感激しました。
4 4	何よりも人命が一番大切である事に鑑み、多様な災害を想定した、多様な防災訓練の実施。

整理 番号	回 答 内 容
45	<ul style="list-style-type: none"> ・本学が被害を受けた場合だけでなく被災地への支援体制の検討なども必要。 ・今回ほど、自動車運転免許がないことが苛立たしく思ったことはなかった。 ・健康な身体（自分は少々下半身に欠陥がある）が一番必要であると改めて感じたものである。
50	<p>上述の指針も活用されなければ意味がない。何よりも大切な事は、各人が資質を高めてどのように行動するかを心がけるよう普段の努力を怠らず、自らを涵養しておかなければならない。</p>
51	<p>一番に家族の安全・健康を考えてしまう。その上で、仕事・職場。</p>
56	<p>水槽等の貯水は利用価値がある。</p>
59	<p>災害時における行動として、個人として次のような行動をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の地震では、家の中だけがメチャクチャという以外は大きな被害もなく家族にも怪我はなかったので、暫くは片付けなどしながら辺りの様子を見ていたが、やはり『他の宿舎や自宅のある人は大丈夫であろうか、大学はどうなんだろうか、学生寮はどうか、寮生は大丈夫か』などが気になり、早速、近くの事務局長・学生課長の住んでおられる宿舎へ行った。そこで無事を確認しあうと、上司に今後の行動等について指示を仰いだ。できるだけ早く大学や学生寮の様子を見たかったからで、一度家に帰り、近隣の教務課長・会計課長・施設課長に局長からの指示を伝え、お互いに大学へ行くことを話し合った。 ・一方、自分の宿舎のすぐ隣では、6～7件の2階建て長屋が跡形もないくらいに倒壊し、傍で毛布に包まっている人の救助の声が聞こえたので、一応救助活動の中に加わってみたが、しかし、これといった道具もなく、結構たくさんの方がいたので引き下がってしまった。ここには、後でもう一度加わってみたが、やはり何もできなく最初と同様に引き下がることにしたが、どちらかという、早く大学へ行きたい気持ちが強く、結局、大学及び学生寮の方へ行ってしまったが、これについては、現在でも、あの時の自分の判断はどうすべきであったか迷いの気持ちがある。
61	<p>外国では災害時にパニックや不法行為が起きると見聞きしている。今回の災害時には一部そういう行動があったかもしれないが、全体として日本人的謙譲の美徳が発揮されたと思っている。特にあの交通渋滞時にドライバーはクラクションも鳴らさずじっと我慢していた。それが大変印象に残った。</p>

1. (3) 避難所に関すること

整理 番号	回 答 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実に良くやったと思う。 ・ 困ったこと→夜中に物資が来ること（ある程度仕方ないが・・・）。 ・ 避難所について→基本的にボランティアなので、系で何人ずつというやり方には問題があるかもしれない。
2	<p>家を失った人たちがほとんどだと思われるので、可能な限り配慮されるとよいと思う（物資・期間等）。</p>
3	<p>大学と市との役割り分担を明確にすべき。</p>
6	<p>避難所に行く必要のない人は行くべきではない。</p>
9	<p>市又は区役所の対応が大変遅れていた。緊急時は非常勤職員を適宜発令すべきである。</p>
10	<p>災害時に避難してくる住民の数に応じて、収容していく場所、その順序をあらかじめ決めておけばどうか。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼出し。 ・ 市の職員の対応は非常にまずかった（責任感なし、遅刻）。 ・ 少なくとも本学の場合は、市から委託してもらった方がスムーズに行くのでは？
13	<p>役所の危機管理システムが出来ていれば、全般にもっとスムーズに行く。</p>
14	<p>避難所の避難民の出入管理に名札（バーコード付）を用意し、救援物資の分配・動静（帰省・退去など）の管理に使って成功した例がある（兵庫区の学校）この様な事例を集めて、整備する価値がある。</p>
15	<p>本学の施設を避難場所として使用するかどうかの検討がまず必要、その上で、様々な状況を想定した対応を検討することになる。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難者への対応 <ul style="list-style-type: none"> →代表者を設けていても直接、物資を取りに来る。トラブルの元。 ・ 避難者の安否確認 <ul style="list-style-type: none"> →電話による外部からの安否の問い合わせ。即答を期待している。 <p>* 神戸市が24時間体制で避難者の前面に出て対応すべきであった。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他大学からの救援物資の中から、ほんの少しでよいからと避難所の人に頼まれたことがあった（初期のころ）。しかし、管轄が違うということで救援物資を渡してあげられなかった。 ・ 避難所に神戸市の職員が配置される時期が遅かった。

整理 番号	回 答 内 容
20	本来は大学の教育・研究を行う施設であり、非常時の一時避難的に対応においては多分にマッチしない面があるのも当然であろう。結局は人と人の心・理解によるものであろう。対応で困った例は、半壊状態とかのマンションから家族では運び出せない家具の搬出に学生の派遣を要請する電話や、生活に必要な品の要求が震災以後日を追って広範に細くなる傾向が強かったことなどである（なお学生派遣の要請はお断りした）。
21	大学の広域避難場所としての指定の本来の意味は、二次災害を防ぐための一時避難場所であり（東京消防庁でも同様見解）、居住場所の代替は地方自治体が確保すべきものであると考える（東京都文京区では、区内に30数カ所ある小・中学校各々に非常食9000食（1000名、3日分）を空教室等に備蓄する計画で、既に都予算を確保したと聞いている）。本学でも、東灘区と非常時の対応区分を明確にすべく協議しておく必要性を感じる。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の具体の場所の認識はなかったと思われるが、今回、白鷗寮の食堂・居住空間は開放すべきでなかったように思う。 ・市職員が弱腰であったため、その分、大学に負担がのしかかってきた。
23	本学及び本学の避難所は、人的にも物質的にも経済的にも大変めぐまれていたのではないかという気がします。少しですが他の避難所や救護センターを見た感じでは、本学の対策本部で詰めていると（少し言いすぎかも知れませんが）する事が少なく罪悪感さえ感じました。他の所へ行けばもっと助けられると思っていました。実際避難所外でも困っている人は大勢いたようですから。
24	一度物資をとりに避難所に入ったが、あまりの寒さにびっくりした。もう少し何とかできなかつたのかと思った。
26	色々困ったことはあったが、実際にあのように被災した人々に面しては（自分たちも被災者ではあるが）言いづらい。一般にはよく聞き入れてくれた方ではないでしょうか、他避難所と比べて。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市自身が被災しており避難所まで手がまわらず、大学の電話が開通以後、避難者への電話の対応に苦労した。神戸市職員が来るまで、取り次ぎは断らざるを得なかった。 ・避難民のリストの作成を速やかに行い管理者側が把握しておく必要がある。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ほんとうに避難しているのか徹底的に調査する。 ・学内施設を貸す前にその人が人間的にまともか調査してOKな人だけに貸す。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の方々に早目にリーダーを出してもらい、年齢・性別・病気の有無等のデータが分かる避難者リストを作成してもらう。 ・地方自治体・他の避難所との情報交換は密に行い、重要事項はできるかぎり避難全員の前で対応する。

整理 番号	回 答 内 容
30	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の地震発生後、午前10時前に東灘区役所の職員から本学体育館を避難場所に提供してほしい旨の依頼があり、この件について自分が対応したため、自己判断で了承の上、すぐさま事務局長に報告し了承を得たが、このようなケースを想定の上、常日頃に各自が適宜に判断できるよう、防災計画に盛り込む必要がある。(→上司に対して事後了承できるシステム) ・緊急時の一時的には全教職員一丸となってこの救援に当たるべきことは当然であるが、ある一定の期間が過ぎれば本来の業務の復興を前提にした救援体制を敷くべきで、その計画についても自治体を通じて早目に避難民に協力を依頼すべきである。場合によっては組織(大学)が独自に対応することも必要である。過剰の支援は、かえって避難住民の自立意識を遅らせる原因にもなるように思われる。
31	行政との話し合いが足りなかったと思うので、今後、連絡をしあって大学も行政も同じ機のうえで処理したら良いと思います。
32	緊急だったから寮に避難所を開設したのはやむを得ないとしても、ある程度体育館・武道館へ統一できなかったものか。学生が寮に帰れず気の毒であった。
33	「直接接触しないように」という事だったので具体的な感想はありませんが、避難者の氏名等を一覧掲示したら便利なのではないですか。
34	市から指定されている避難所にもかかわらず、緊急時の対応の遅さにはがっかりです。
36	何とんでも神戸市などの対応が遅すぎたことだ。マンパワーなど出せないとしても、現地受入れ機関(本学)と緊密に連絡をとり、組織的・経時的対応をとるべきであった。これは今も改善されていない。
37	今後のことを想定して、自治体の責任を明確にして受け入れに応ずるよう自治体と協議するようしておくことが必要ではないかと思います。
38	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所として、体育館・武道館等の避難所に、ボード等で少しでもプライベートな空間を作るべきであったと思う。 ・本学の災害対策本部の大半の意味は避難所のためにあったように見えるが、神戸市の対応はおそまつであった。
40	避難住民は感謝していたと思う。強いて反省点を上げれば対応の範囲が個人によってまちまちであったように思う。個人の判断で対応すると混乱をきたす。
41	情報提供がうまくいっていなかったのではないか。
42	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供がうまくいっていなかったのではないか。 ・救援物資が巧く配給されていなかった(学外)。
43	大学と市の役割分担の明確化が必要である(避難者に問われても答えられないことが多く、不審感を持たれる)。

整理 番号	回 答 内 容
44	<p>避難住民が仮設住宅に転居する場合、神戸市職員に何も告げず退居して行った。また神戸市職員も避難住民の動向を何も把握していなかった。</p> <p>「隣は何をするものぞ」という無関心生活をよく耳にする。この無関心意識から――避難所はこうあって欲しい――に関して。</p> <p>避難所はそれ自体が1つのコミュニティを構成している。人数の多少や、また理由にかかわらず、その時は共同生活を行っているのであるから、住民同士で早期に結束し、助け合うためにも自治・共同組織の確立が望まれる。</p>
45	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、避難民が避難民にボランティア対応するという異常事態であったと思う。お互いがお互いを理解できた状態に対応できたという点で、特異な状態であったと思う。 ・本来避難所は、避難民の自主運営となるべきと考えるが、本学の場合は施設の維持管理の問題もあり、本学職員が介入するのも当然有るべき姿で、今回対応した事が一つの目安となるのではないか。 ・当初は、ほとんどの作業（救援物資の分配・運搬など）は職員で行っていた（というのは、各大学からの救援物資の分配の問題があった。）が、その方針が決定してからは避難民の代表者を設定してもらい、共同して作業に当たることができた。 ・直接質問の回答ではないと思うが、一つ感想を。 施設の維持管理の問題もあろうかと思うが、初期は対策本部限りで対処できていたことが、日を重ねるにしたがって手続きが煩わしくなってきた。具体的には支障があるので記入しにくいですが、例えば、他大学からの支援物資が増えるにしたがって救援物資の保管場所に困ってしまい、保管場所提供のためあちらこちらに頭を下げた事もあった。それぞれの立場もあるので、やむを得ない事であるが。
47	<p>避難所責任者と避難所指定したの自治体責任者（地区）と事前にどのような災害の時に、どのような通報により避難者を受け入れたら良いのか、又避難所側への救助要請又は事前の体制（ボランティアを含む）等十分協議しておく必要があり、又、1年に1回程度確認と協議の場を設ける必要がある。</p>
48	<p>対策本部に神戸市の方が常駐されていなかったため、本部と避難所が別々のものに思った。震災当初は別として対策本部・避難所を1つのものと考え対策本部を徐々に神戸市に移行し大学側が補佐的業務を行う方がいいと思う。</p>
50	<p>神戸市との対応にあたり、他府県の派遣職員の方ばかりでもうひとつ要領を得なかったり、日替わりで交代されたりで、次の方が全く引き継ぎを受けていないこともあった。神戸市の対策本部と連絡を取った時、本学については神戸市の傘下で本学が対応しているものとなっている人もいた。当方としては、避難民への対応は神戸市が第一の窓口であることを念押しし、これだけの大被災であるからこそ避難所の提供に止まらず、隣人として種々協力していることを強調し、この方針を貫いた。</p> <p>学生寮が避難所に指定されているが、学生の生活の場であるが故により困難な事態を招いた。寮の付近に避難所は数か所あり、避難所に指定されている寮は他にない。指定をはずしてもらっては無理な要求だろうか。</p>
52	<p>医療ボランティアに対して、場所の提供に困った。</p>

整理 番号	回 答 内 容
53	<ul style="list-style-type: none"> ・周知徹底がはかりにくい。 ・避難住民はボランティアにたよらず、独自で清掃を行うとか、できることは自分たちで行うべきである。
54	<p>避難民の人たちが受身的であった。一部ケガをされ方やお年寄りもおられたが、ほとんどの人は元気な人であった。その人たちに手伝ってもらわず我々だけで食料の分配をしたり救援物資を受け取ったりしたのはおかしいと思う。避難民の人たちは大人である！手とり足とり世話をしたのはどうかと思う。</p>
55	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の衣食の不公平。 ・避難所へ行ったがいっばいで別の所へ移動（知人からの話）。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・当初から市職員の配置を望む。 ・学生の生活の場である「学生寮」は、避難所の指定からはずしてほしい。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市が避難所として指定するのであれば、もっと役所が世話をすべきであろうと思われることから、役所の中に避難対応の部所を設置していただくべく要望するのはどうか。 ・学生寮は学生が生活している場所であるため、避難所からはずすべきであろう（現に今回は学生が何かと大変不自由をしておりかわいそうであった）。
60	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所としての市と大学の役割を決めておくことが必要。 ・道路・鉄道が不通になり、救援物資の輸送が非常に困難であることから、避難所の規模に合わせた食糧等の備蓄をすること。
61	<p>いくら敷地が広く、建物空間も広いといっても、白鷗寮のような人間の生活施設を避難所に指定することはどうかと思う。現在まだ仮設住宅の入居者等が市内に多く居り、震災の爪痕が残っている状況ではこういうことは言えないが、いつかは白鷗寮を避難所指定からはずす必要があるだろう。</p>

1. (4) 他大学の支援について

整理 番号	回 答 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・有難かった物：暖かい食事。 ・不要だった物：一度に大量に来る水。 ・救援体制：細く長く。
2	感謝の一言につきると思います。
3	他大学からの支援は避難所の避難民のものか大学のものなのか使いわけが行われていたが、それで良いのかという疑問があった。
6	エビせんのようなものをダンボール箱に気が狂う程送って頂いたが、この保管だけでもたいへんな作業であった。これを送ったら本当に喜ばれるであろうと思われるものを送って頂きたい。
7	船による支援が、非常に有効であったと思う。
8	支援（ロッカーの搬出等）に大変助かった。
9	大変良かった（衣食は有難かった。不要なものはなかった。運送は陸のみにこだわらず、空・海をもっと利用すべきである。）。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・有難かった物：初期の水・食べ物。 ・不要だった物：腐りやすい食べ物は扱いが困難。 ・必要なものを被災地から発信できるようなシステムの確立が有効ではないか（インターネットの利用等）。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド・タオル・おかし・車（筑波大）。 （でもポテトチップは運搬に要した仕事量に比べると、価値は少なかった） ・バイクが欲しかった。
13	あの混乱を考えれば、よくやってくれたと思う。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・救援物資のリストを情報公開すべきであった。 データベースにして、地域間との情報交換などにより、協力関係ができたのではないかと（全面的には無理としても）。 ・寮と大学との物品のニーズも異なる部分があったと思われる。 ・ボランティアの有効な活用を図る仕組みが必要。
15	<p>救援体制→災害発生からある程度の時間が経過してからの対応では遅すぎる。</p> <p>（例えば、東京商船大汐路丸など）</p> <p>災害発生直後とある程度時間が経過してからでは救援物資の質と量に差があるのは当然と思われる。いつの時期でも必要なのは、情報の伝達経路・手段ではないだろうか。</p>
16	全体的に、大旨良好であったと思われる。人的支援で時によっては使う場所に困った。

整理 番号	回 答 内 容
18	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水、雑用水の支援はありがたかった。 ・食事の支援でおにぎりなどが大量に運びこまれたが、冷たい、かたいと不評だった。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・有用：ガスコンロ ・無用：タオル・石けん等
20	<p>数多くの大学からこれ程早く夫々に心のこもった支援をしてくれた事は誠に心強く、感謝の一言に尽きる。そうした観点から人材の応援支援や救援物資にしても総じて有難いものばかりで、不要なものなど考えられなかった。各種食料をはじめ水・ポリタンク・手拭い・軍手・等々、全て有難かった。何かの折りにはこの有難さを又他にもお返ししなければならない。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> ○有難かったもの <ul style="list-style-type: none"> ・水・弁当・おにぎり・生で食べられる野菜・果物・生鮮飲料等食糧。 ・医薬品・毛布・軍手・使い捨てカイロ・ごみ袋・簡易ベット・台車・携帯電話・トランシーバー・自転車・リヤカー・軽トラック・水保存用布製タンク・暖房器・避難所用無料電話等。 ○不要と思われる物 <ul style="list-style-type: none"> ・お菓子（ポテトチップス）・傘・シャンプー（普通の）・炊飯器等。 ○無駄をなくすため、計画的な救援が必要。特に食糧（生物）は日持ちがしないため同一数量を定期的に支援する必要がある。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物資は、時・状況の変化で刻々と変わってきた。 ・計画的に順次、到着して欲しかったが、あの混乱の中で危険を冒してかけてくれたのだから、わがままはいえないだろう。 ・大学も、職員も、家族も、皆、被災者であった。支援する側の者は、現地に入ってきて、状況を把握し細かく要請しなくても援助して欲しかった。
23	<p>心より感謝しております。</p>
24	<p>炊き出し。やっぱりあたたかいものはありがたかった。また他の保存食もいろいろ種類が豊富だったように思った。</p>
25	<p>一度に多くの大学から支援物資が届いたことは有難いのですが、受け取りに苦労しました。</p>
26	<ul style="list-style-type: none"> ・有難かった物：飲料水・保存食・ボンベ式ガスコンロ・懐中電灯・電池。 ・用意しておくべき物：緊急用燃料・発電器・暖房器・飲料水・保存食など。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・通信網の混乱と、支援物資のリストアップをしていなかったため、重複した物品、品物が多く届いた。 ・大学自身も被災し、避難住民の対応にも気を使ったが、少ない人数でよく統率がとれていたように思う。 ・避難者の年齢、性別にもよるが、有難かったのは暖かいもの供与であった（御飯・みそ汁等） 不用なものは、炭とか練炭類と思う。

整理 番号	回 答 内 容
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要なもの：ウェットティッシュ ・ 施設的には、緊急体制に対応しきれない面も多くあるので、課員だけでなく出入の業者も本学に詰めさせてもいいような体制は必要と思う。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要な救援物資はなかったと思うが、タイミングの関係（相互の連絡不足のため？）でせっかくの救援物資ダブルが多かったように思われる。 ・ 道路交通事情の悪化が予想されるので、海路・空路でのタイムリーな配給システムを整備できると良いと思われる。
30	<p>① 今回の他大学、航海訓練所及び本学に関係する企業等からの支援については、非常に素早い対応と多大の物的・人的支援については、言葉に言い表せないほど感激しました。</p> <p>最近に、地域住民と深く接触する機会が多くなり、当時の状況を聞くと、本学ほど早い時期から多種に亘る支援があった施設は数少ない気がした。</p> <p>② ただ、震災直後においては、支援依頼・連絡等が十分でなく、廃棄する食物等も多かったときもあったような気がする。また、道路状況等の事情もあり、物品授受の時間が24時間体制となり、支援する側受ける側双方ともその従事者の肉体的負担は相当なものであった。</p> <p>③ 本学の支援の受け入れ体制についても、当初は窓口の体制が十分でなかったために混乱したが、今後は防災計画の中に、防災発生時間等を考慮した役割分担を決めておき、無駄を極力省ける状態の体制を確立すべき必要がある</p> <p>また、非常に難しいことと思うが、国立大学間である一定のブロックを定め、その中の代表校が窓口となり、情報の交換及び支援体制の窓口となる体制を敷く必要がある。</p> <p>④ 今回の業務復興に向けた対応で、研究室の復興に他大学のボランティア学生が大活躍して頂いたが、残念に思ったのは、本学の教官の中には、自ら復興に努力する姿が見えなかった者がいたように思ったことと、本学の学生に対して、集合できるかどうかは別にし、非常召集を呼びかける必要があったと痛感する（ある範囲の本学学生は非常に活躍したが）。</p>
31	<p>衣類は不要であったと思う。もっと避難者の人達とよく話して、何が必要だったのか調べる点がなかったのが問題だと思います。</p>
32	<p>水・衣類（パーカーの上下セット）・炊き出し（カンヅメ）等の支援がうれしかった。不要は、七輪等。</p>
33	<ul style="list-style-type: none"> ・ これほど救援物資が多いことに感激すると共に、色々考えて送って戴いていることが伺えました。 ・ 当方で本当に必要なものをリストアップして、リアルタイムに伝える方法があれば、もっと有効だったでしょうが。
34	<p>救援物資が豊富にあり、暖かい炊き出しが毎日あり、かなり恵まれていたと思う。</p>

整理 番号	回 答 内 容
36	<ul style="list-style-type: none"> ・直下型地震のため被災域が局所に限られたこと、本学は国立機関であったことにより、本学は支援を受ける上で大変有利な条件にあったと思う。 ・もっとも感心したのは広島大学である。日頃から準備があったか、或は緊急に対応できる柔軟な意思決定がなされたのだと思う。一度広島大学に聞いてみて、今後の参考にしたらどうだろうか。
37	<p>支援物資はすべてありがたがったと思われます。ただ、物資が片寄って処分しなければならぬものが出たのは、もったいない気がしました。救援にも今後はロジスティクスの観点が用いられるべきではないかと思われます。</p>
38	<ul style="list-style-type: none"> ・救援物資の配分が無秩序だったように思われる。 ・最初に阪大から来た自転車はさすが、と思った。 ・別紙（震災報告 P.25）参照。
40	<ul style="list-style-type: none"> ・支援については全てありがたかったが、本学の要請により必要最低限にし、何を、どこで、どのように使用するか目的を明確にすべきであった。 ・避難所への物品配布は検討を要する。
41	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省の号令のもと、遠方からも混雑している道路状況等にもかかわらず、多数の大学から支援していただき、ありがたかった。 ・救援物資を送る側と受け取る側の調整が十分でなかった。 ・大学間の協力体制について事前に取り決めておくべきである。 ・今回のように、本学の職員が少ない中で夜中にも物品がどんどん届いたことについて何らかの対策が必要である。（今後は携帯電話などの通信手段の整備とともに解決ができるかも。）
42	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方にもかかわらず混雑している道路状況等で多数の大学から大量の物資を支援していただき、本当に助かりました。 ・救援物品の送付側と連絡調整が十分でなかった。 ・大学間の協力体制について事前に取り決めておくべきである。 ・本学の職員が少ない中で夜中にも物資が大量に届いた現状について何らかの対策が必要であろう。（今後は携帯電話などを用いた通信手段の整備が検討されるべきだと思われる。）
43	<ul style="list-style-type: none"> ・支援があったため、何とか業務がすることができ大変助かりました。 ・支援する方の勤務時間等について明確にする方がスムーズにできたのではないかとと思われる。
44	<p>救援体制の確立が望まれる。つまり災害前線基地の設置である。基地から被災地の状況を確認し、必要な救援を各機関に報告するとともに、それぞれ必要な救援を分担させることが必要である。</p>
45	<p>○救援物資で有難かった物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何と云っても、航海訓練中の練習船からの差し入れであったと思う。暖かい食べ物が、どれだけ心を和ませるか、改めて思い知らされた。 ・あとは「水」。

整理 番号	回 答 内 容
(45)	<p>○不要だった物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要だった物はない（結果として使用しなかった物もあるが）。 <p>○救援体制はこうあるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統制のとれた迅速さ。 <ul style="list-style-type: none"> →航海訓練中の練習船が組織的に救援活動を行ったのには感心する。 ・他大学からの支援については、もう少し組織的に行えなかったものか疑問に残る。 <ul style="list-style-type: none"> →各大学が調達できる物品を近隣の大学（今回は被災のない京都大学など、あるいはその大学へ文部省職員を派遣する）へ登録し、そこを支援本部として、支援物品の調達振り分け作業を行えば、もっと的確な支援体制ができたのではないか。 ・本学の場合はどうであろうか。 <ul style="list-style-type: none"> →本学にも、支援に利用できる設備・機材があると思うが、うまく機能できるか疑問に残る。要は、それらを利用する意志があるか、うまく利用する技術があるか、職員に災害支援に対する理解があるか、ということが問題と考える。
46	結果論になるが、救援物質の配送は、もう少し交通整理ができなかったのだろうか。
47	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがたかったのは、まず飲料水と食料（炊き出し含む）、小回りのきく軽自動車や当直者の簡易ベット等、当初の発電機など大方のものは善意あふれる有り難いものであった。 ・不必要というか困ったものは、救援体制が整ってからの少量容器（一升ビン・ビールビン）による水や古着等衣料、救援の重なった生鮮食品（オニギリ含む）など
48	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の支援は、幹事大学を決め支援物資の交通整理を行えば同じ物が大量に支援されることが防げたと思う。 ・対策本部と各大学の対応であれば、どうしても各大学は、最大限の支援をしたいという気持ちになりトラック満載の支援を行い、自然と同じ物が大量に支援される形になると思う。
50	<p>有り難かった物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何といっても「飲料水」。水なしでは生きていけない。 ・あの寒い中での炊き出し支援には心から感謝したい。 ・使用頻度の少ない物品もあったが、送り主の気持ちを思い、ありがたく受け止めたい。 <p>人材派遣について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣された方からの苦情も受けた。現場においては、要請しておきながら仕事の段取りをつけていないと思われる所もあった。遠路、自らの仕事を中断して来ておられる事にもう少し留意してほしかった。
51	飲み物・食べ物が一番有り難かったのでは。
53	<ul style="list-style-type: none"> ・有難かった物：ベッド・ビール。 ・不要だった物：多すぎる物（ポテトチップス）。

整理 番号	回 答 内 容
55	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の支援については、大変有難く感謝しています。 ・水・物資が大量にあり、驚いた。
56	有難かった物：食糧・自転車・トーチ・ヘルメット。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・保存のきかない食料（おにぎり・パン等）が一度に集中し、処分したものが多くあり、もったいなかった。無理かもしれないが調整の必要があった。 ・当初以後、数大学から積極的に本学が希望する物資について問い合わせがあり、長引いた避難所生活及び本学の復旧等に必要な物資を調達していただいたことはありがたかった。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の他大学からの支援は非常に早く、また多くの物資をいただいたので、感謝こそすれど、これ以上の要望はない。なぜならば、他大学からの支援は本学からの要請で動いていただいたもので、それも非常に早い2日目から救援物資が次々と届いたからである。 ・別件で目立ったのが、公開訓練所の練習船（銀河丸・北斗丸・海王丸）からの炊き出し及び広島大学の出張炊き出しは、長期にわたっての寒い中での温かいご飯・みそ汁等であり、大変有り難かった。また、広島大学の医療班派遣についても、長期にわたる避難住民及び本学教職員に対しての医療活動は、大惨事の際だけに頭の下がる思いであった。
60	<ul style="list-style-type: none"> ・おにぎり、サンドウィッチ等は大量の場合処置に困る事から、初期はカンパン、カンヅメ等の保存食料がよいと思われる。 ・人的支援は非常に助かったが、組織支援ができればなおより。
61	<p>食物等物資の不足していたときに、他大学から送られた大量の支援物資は大変有難かった。つくづく国立大学の有難さを実感した。遠くの大学から来られた方々には申し分ないが夜中の作業はしんどかった。今後、震災地近くにキー大学を設けてそこへいったん物資を集め、そこで集中管理をさせたら良いと思う。</p>

1. (5) 防災体制（非常時の体制）について

整理番号	回 答 内 容
1	原案を出して下さい！！
2	防災マニュアルの整備等も重要と思われるが、日頃からの心掛け（防災訓練等も含む）もそれ以上に大切と思う。
3	非常時における教授会等の開催を考えて下さい。
6	大学・寮に当直で泊まったりしたが、必要以上の人数はいらないと思う（多すぎるのではないかと思われた）。
8	非常連絡網の充実。
9	消防署・自衛隊・ボランティアとの連携プレーが重要である。さらに電力・水道・ガス会社との密接な関係も重要である。
13	大学自身が危機管理体制を、つくっておくべき。
14	港を持つ大学としては、岸壁が破壊されていなかったとしても、うまく物資輸送、人員輸送に貢献できたかどうかと思われる。防災体制とともに、緊急活動としての任務として何ができるかを市や県と調整したり、船の活用の検討をしておくことは可能であろう。
15	大学全体としての緊急連絡網の整備が必要。現状はどうなっているのかも不明確。この機会に検討の余地あり。
16	本部の部屋が集会所のようになり、本部業務に支障があったように思われる。
18	定期的に防災教育、訓練など行う必要がある。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防火・防水・耐震の設備・構造に充分配慮をした上で、防災の為の人的組織についてはその性格上臨機応変に対応せざるを得ないであろう。その為には第一に連絡網の確立が最優先事項である。 ・ 外部との連絡網に直結した学内的な連絡網の確立が重要である。その中で4W1H（何時、何処で、誰が、何を、どうするか）を確実に決定して行くことが出来るであろう。
21	(4) までの回答以外では、要員確保の必要性を痛感した。大規模大学のようなスタッフがいたら、学内の対応のみならず近隣住民の救援活動ももっと積極的に対応出来たと思われる。外部依頼もやむを得ないが、あくまでも契約業務であるので、契約に無い非常時の対応については対応が不十分であっても責任を転嫁出来ない。

整理 番号	回 答 内 容
2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・初期の段階は出勤している職員も非常に少ない。従って、次々に発生する事態に役割を越えて何でも対処すること。ある程度人が集まった段階で班を編成し、機動的な体制にする。 ・災害対策本部に詰める者と、事務局に残る者を分けておく。平常業務の処理も重要である。
2 3	<p>今回のような場合、少なくとも避難所間で過不足の物や要望について密に連絡を取り合うシステムが必要と強く感じました。又、COOPや一部ボランティアがやったように各家を回りHearing しておればもっと多くの人が助けられたと思います。防災設備や訓練も悪くないですが、もっと人のつながりを必要とするシステムが重要であり、今回生まれたノウハウを伝え広め、組織化できれば素晴らしいと思います。</p>
2 6	<p>大学職員及び学生の全体としての防災体制の概要を考える。年に一度、防災体制の中での自分の役割や全体としての行動内容などを認識する日を設ける。</p>
2 7	<p>今回の経験を生かし、他大学・機関等にさきがけてマニュアルを作成すべきだと思う。庶務課案を一刻も早く審議すべきでは。</p>
2 9	<p>各業務とも重要と思われるが、広報（報道）業務が特に重要と思われる。学外への情報の一本化、また学内関係者に各業務の状況を数枚に印刷して配布し、連絡事項の確認を徹底する。</p>
3 0	<p>震災等防火体制の確立については、非常に難しいことと思うが、その組織の業務内容を中心とした計画の中で、発生時間及び職員等の通勤状況等を仮定した各種のマニュアルを作成し、地域への支援体制はそれを基本とした中で、最大限の救援、支援方策を確立すべきと思う。</p>
3 1	<p>マニュアルがないため、どう判断したらよいのか困ったので整備してほしい。</p>
3 2	<p>実際に訓練をやってみるべきである。</p>
3 3	<p>防火訓練や避難訓練がなおざりにされていますが、こうした訓練は震災を含む防災意識を培うと思います。</p>
3 6	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時の意思決定と執行を行う組織を柔軟に編成できるようにしておく。 ・日頃からの準備→連絡体制と災害訓練（質問1. (2) 参照）。 ・本学の特殊条件利用の件では、ポンドと船・広いグラウンドがあるのだから、救難救急・輸送体制を整備しておく。本学だけでなく、周辺や他所災害への支援上も重要。（この面では、こうした準備があれば、今回の震災でももっと意義ある活動ができたと思う。）
3 7	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を明確にした対応体制を確立。 ・非常食・水の備え。 ・災害時に必要とする用具類の確保。 ・大学が使用できない場合を想定した学外災害対策本部の設置。 ・深江丸の緊急出動に備えた対応。

整理 番号	回 答 内 容
38	国・地域・学内・各部署のシステムとしてできあがっていることが必要と思われる。
39	災害対策本部は、本学だけでなく近郊の被災地域外にも設置すべきではなかったかと思う。教職員・学生の安否の確認や問合せに対する対応等は、被災地外のほうがスムーズに行えたのではないか。
40	非常時に対応するマニュアルの作成。それに基づく訓練の実行。
41	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事態がある程度落ち着けば、当然、通常の職階で対応していくべきであるが事態が混乱している中でスムーズに対応できるよう整備する必要がある。 （例えば、徒歩30分圏内のもので組織化を行っておく、有能な人間が職階にとらわれず全権をもって事態に対処できるようにする、等々） ・ 非常時のマニュアルの整備をする必要がある。（内容変更を適宜行えるよう考えるべきであろう。例えば、今回整備したものが内容的の合わなくなった後も、そのまま使われるのは困る。）
42	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事態が混乱している状況で迅速に最善の対処ができる体制作り及び各担当を決めて置く必要がある。（現在の配属を無視して） ・ 非常時マニュアルの作成が必要である。
43	職場に来れる者、来れない者とあるが、個人差が大きく感じられ、多少は家庭にゆとりがでてくれば、来れなかった者も来れるような環境が必要であるかと思われる。
44	防災面は訓練の必要性があること。そして非常時の体制は「協働体制」の推進が必要である。つまり学長を頂点とした体制を整え、救助、救援及び復旧、復興に向けて共に協力するため、学生を含む学内全員で対話し、合意のもとにその方策や施策を周知徹底させ、かつ全員でその対策のために動く「協働体制」が重要ではないかと思う。
45	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常時においては、訓練されていない限り何を決めておいても気休め以外の何にもならない。たとえば体制を決めていても、今回の場合何人の職員が駆けつけられたか。現実には駆けつけた者で組織するしかないのでは。 ・ 教職員の防災意識の向上とともに、防災訓練が必要で、特に災害時にどのような行動をとればいいのかなど、知らない事、分からない事が多く、より具体的な研修・訓練の機会が必要と思う（地震に限らず火災・交通事故など）。そのうえで、組織の状態・実力に応じた体制を分かりやすく具体的に整備する事が大切だと思う。
47	学生のボランティアについて、従来より実施している課外活動でのリーダーセミナーのカリキュラムを防災体制を想定したものに発展させ、地域住民とのコミュニケーションも取り入れたものにしてはどうか。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今進捗中の防災規定のほかに、一目で分かるような”しおり”を作っては如何か。 ・ 日常の心掛けを忘れないように1月17日を”防災の日”としては如何か。

整理 番号	回 答 内 容
5 2	病院に勤務しているときは、年に一度火災訓練があり、それなりの知識・対応はできると思っていた。この大学に勤めるようになって7年、一度も防災訓練を行っていなかった。しかし、一人で居ることが多いので、どうしたらいいのかは普段から心がけてはいたが、このような災害時の体制はそう簡単に決められるものではないが、大学全体で検討してもらいたい。
5 3	防災体制を整備することは必要であるが、今回のような大災害の場合には、まず自分自身と家族の安全を確保することが重要ではないかと思う。
5 4	非常時にリーダーシップのとれる有能な人を多く育成していくべきだと思う。非常時に無能な人がリーダーになったら悲惨である。たとえば、避難所の救援物資や食料の分配などに、スーパーの主任がボランティアをしてくれたら、ずいぶん効率的であったと思う。
5 5	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の校内放送の設置。 ・自家発電。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・官舎・学生寮・学内建物は強固に造っておくこと。 ・非常食・水・火の確保。 ・本学船舶の活用。
5 8	<ul style="list-style-type: none"> ・本学構成員（教職員，学生）一体となった体制を策定する必要がある。共通の体制と個々の任務が具体的、かつ一目でわかるような体制作りが必要である。 ・その体制は、勤務時間内と勤務時間外に分けるようにし、その体制（組織・任務等）につく出勤用件を明確にしておくことが必要である。
5 9	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災訓練が必要。消防訓練と同時に実施してもよいのではないか。 ・従来の防災規定は、教官・職員とも余り認識はなく、また、いざ災害の際はすぐに動けたかどうか。防災規定を整備し直すとともに、教職員に災害の際の対応について認識してもらうことが必要。 ・災害時の対応としての道具・用具類の整備。 ・教職員・学生の連絡体制の確立。教職員は、系や課単位での連絡体制はどうか。学生は、学生寮を除く通学性に宿所届けを必ず提出させ、近くの友人1～2名を記入させるのはどうか。
6 0	<p>予防的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物及び設備の耐震性の向上（既存建物の耐震診断・耐震補強、給水設備・電気設備の耐震性の向上）。 ・劇物・毒物・危険物の管理の強化。 ・通信手段の確保（非常電源の確保，行政電話の加入）。 <p>非常時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要員の確保（大学間の支援体制の整備）。
6 1	当然、今後火災のみの体制を見なおしてあらゆる防災に対するマニュアルを今回の経験を生かして、じっくりと作成する必要がある。

1. (6) その他

整理番号	回答内容
1	地域と大学の関わり合いをどうするのか。例えば防災対策もそうですが、その他学内施設（プール・グラウンド・講堂等）の常時共同利用など、より開かれた大学作りを検討すべき。
7	二号館別館の西側外壁（2～3階）にX型のひび割れが生じているが、修繕しないのでしょうか？非常に不安です。
14	阪神高速道路（湾岸線）の功罪について、大学としても一定の態度表明をすべき時かも知れない。
15	アンケートの活用を期待しています。
18	神戸商船大学の避難所は、神戸市と他大学の両方から救援物資が届いているので、他の避難所に比べて恵まれているという話が避難民の間でうわさになっていると聞いた。
21	今回の震災対応については、学長、局長が管理責任者としての当事者能力を発揮され、即断・即決で指示を出して戴き、人命最優先を前提に速やかな対応ができたと思います。自画自賛になりますが、限られた条件下で最大の対応をしたと思います。
22	1. 本学が行ったことを詳しくまとめ報告することで、各大学は各々、地域、大学規模に応じた防火体制のあり方を検討するのではなかろうか。 2. 市の防災計画の見直しがあるやに聞くので、それを参考にする必要がある。
23	・特に災害時の問題ではないが、大学の機構として苦情受付の窓口がなく（あるいはあっても対応してもらえなかったり、窓口が不明なことも多い）、このような機会でない意見表明しにくい。一部役所にある、すぐやる課をみならってほしい。→例：新規採用者への案内、設備の不良修理etc. ・情報を極力オープンにすること。
25	災害地の道路規制がどうしても必要と思われれます。
29	本学の位置が43号線の側、かつ海岸を持っているという災害時にはいろんな面で対応しやすいロケーションであるので、“大学の自治”の範囲内で防災関係の他省庁と共同で施設の整備ができると思われる。 ex) ・グラウンドの芝生化で“陸海空”の複合輸送で被災者の輸送、救援物資の搬送を行う。 ・平時は学生の合宿所や来学者の宿泊施設、また災害関係研究室のある建物をグラウンドの東側につくり、非常時には対策本部として使う。
31	スクールバスを出してもらったのは大変嬉しいですが、時間通りに着かない等の問題があり、利用する方に気まずいものがあった。
34	自衛隊や遠くから来て下さったボランティアの方々には大変感謝しています。

整理番号	回 答 内 容
38	<p>地震復旧は、文部省も平成7年度第2次補正で完了としており、予算的にも人的にも余裕がなく、一過性、もう来ないだろうとしがちで、いろいろ考えても“せ”のない事ではあるが、大学の管理責任として、学生・教職員、また地域のために、できるだけ防災対策を施していく義務はあると思われる。</p>
41	<p>職務命令とボランティアのあり方について考える必要がある。今回の震災の場合、神戸商船大学で職務命令に基づいて活動するのが最前と判断し、行動している。ただし、今後、他の地域で災害等が起こった場合、本学の職員がボランティアとしての活動を行いやすくするような方法を考える必要がある。(例えば、休暇を取りやすくする、等々)</p> <p>今回の震災では、最初は、職務命令かボランティアか区別をしないまま活動していたが(災害の初期段階では当然だと思う。)、比較的早い段階で、対策本部業務も職務命令での活動であると定義付けされたことは正解だと思う。対策本部業務に対する多額の超過勤務手当の支給は、職務に対する当然の報酬であるにしても、ありがたかったです。(しかし、対策本部業務についてはボランティアで行ってほしい旨、要請することも可能であったとは思っている。)</p> <p>(上記に関連して、予算上の裏付けのない職務命令は、するべきでないと考える。現に、4月以降の宿直手当について、本日10月31日現在支払われていないが、予算上の裏付けがないのであれば、ボランティアで行ってほしい旨要請すべきだったのではないかと。私はボランティアであっても当直を行ったとは思いますが、職務命令で行っている以上は、宿直手当の支給を求めるのは当然のことでしょう。)</p>
42	<p>非常事態で人手が不足し、体力的にオーバーワークになり震災後何か月も経過して体調を著しく壊した人もおられたので、忙しいのも理解できるが考慮できないものかと疑問を感じた。</p> <p>一生に一度程度しか経験できない事を経験したので、今後の人生に生かされれば良いと思う反面、二度と経験したくないと思うし亡くなられた方のご冥福をお祈りします。</p>
44	<p>震災でボランティアの活躍は目を見張るものがあった。翻って私を含め私の子供たちは何もしなかったし、何もさせていないのが現実である。やはり社会の一員として、日常生活での自然な奉仕活動ができるように、学校教育をはじめ家庭における啓蒙を重要視したい。併せて、我々大人が積極的に参加し、無意識の奉仕活動ができるような社会的環境を整えたいものである。</p>
59	<p>・学生寮の避難場所としての指定について</p> <p>今回、学生寮には大学本部とほぼ同数くらいの避難者があったが、これは寮が住宅地の中に位置していることや平常からの地域住民との接触があったことから多くの方が避難してこられたと思われる。ところが、これだけ多数の避難者があったにもかかわらず、大学側の対応はどちらかといえば寮生におんぶした(任せた)形で、ある期間教官・職員を配置しただけの体制であったように思われる。学生寮が避難場所として指定されているならば、大学全体としてももう少し教官を中心とした職員の配置などを考えるべきではなかったではなかろうか。</p> <p>これは、殆ど寮生が対応していたことから、トラブルなど起きた場合にはどうしても学生部が窓口にならざるを得なかった事から感じたことである。</p>

整理 番号	回 答 内 容
(59)	<p>・遺体の安置所について 今回のような大惨事により、本学も遺体の安置所になったが、中途での相談ごと、最後の後処理などの際、やはり教授にもっと動いてほしかった。殆どが事務側で対応していたと思う。</p>
6 1	<p>今回の震災において、本学の教職員の働きに感動するとともに、協調性や、積極性や、危機管理能力のある人が多いことを知ってうれしく思った。</p>